

2010年3月期 決算説明会

2010年4月30日
ヤマハ株式会社

2010/3期 決算の概要



外部環境

- 世界的な景気減速の進行
- 円高傾向の定着
- 法人向けビジネスは回復基調

決算の概要

- 2010/3期は対前期減収営業減益
当期利益は事業構造改革に伴う特別損失、法人税等の計上および繰延税金資産の減少等により、2期連続の赤字決算。対前回公表値(3/19)では、増収増益
- 景況感の悪化、為替影響等で各セグメントとも、対前期減収。利益は経費削減効果もあり、楽器を除く全セグメントで対前期増益
- 為替影響(▲188億円)を除いた実質売上高は前期比5.6%の減収
- 期末棚卸資産残高は、為替影響(4億円)を除けば、前期末に対し、実質108億円の減少

2010/3期 業績概要



▶ 対前期減収営業減益。対前回予想増収増益

(億円)

	09/3 実績	10/3 実績	前期比	前回予想 (10/3/19発表)	前回予想比
売上高	4,593	4,148	▲9.7%	4,130	+0.4%
営業利益 (営業利益率)	138 (3.0%)	68 (1.6%)	▲50.7%	60 (1.5%)	+13.8%
経常利益 (経常利益率)	120 (2.6%)	49 (1.2%)	▲59.0%	40 (1.0%)	+22.8%
当期利益 (当期利益率)	▲206 (-)	▲49 (-)	—	▲50 (-)	—

為替レート

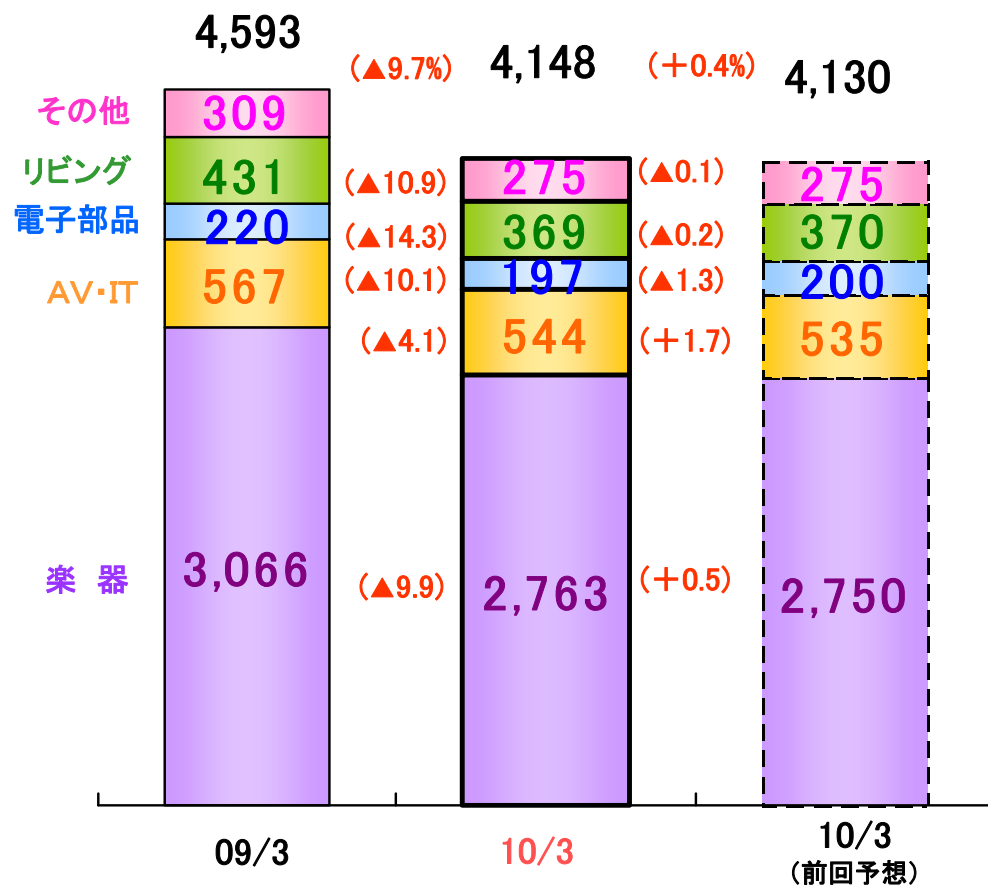
(円)

売上高	US\$	101	93	93
	EUR	144	131	132
利益	US\$	102	93	93
	EUR	153	130	129

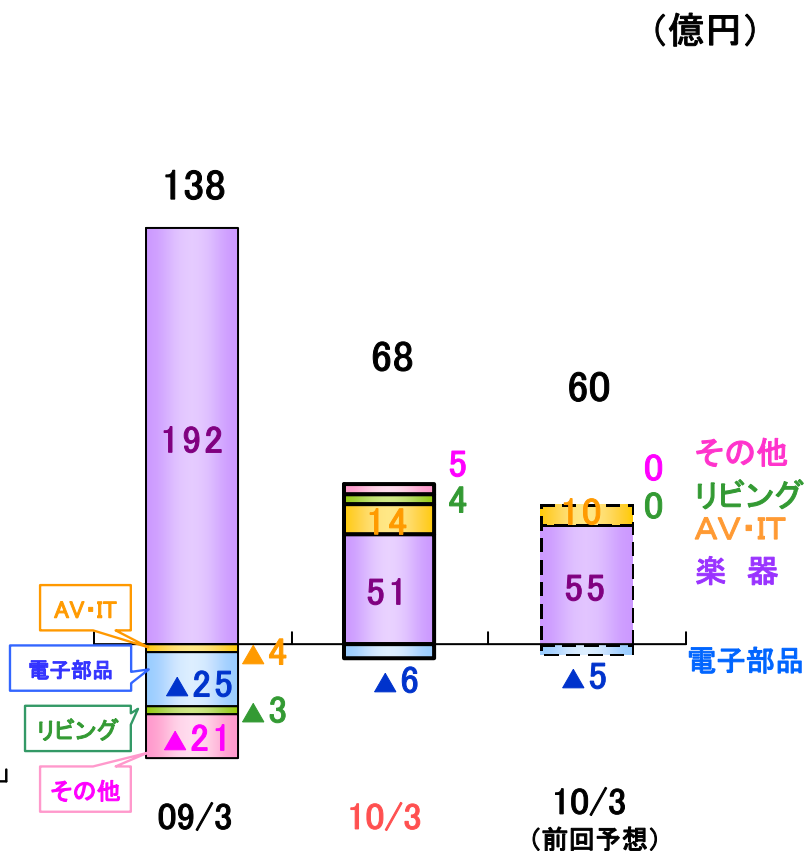
2010/3期 通期事業別業績



売上高



営業利益



()内は前期比
または
当初予想比

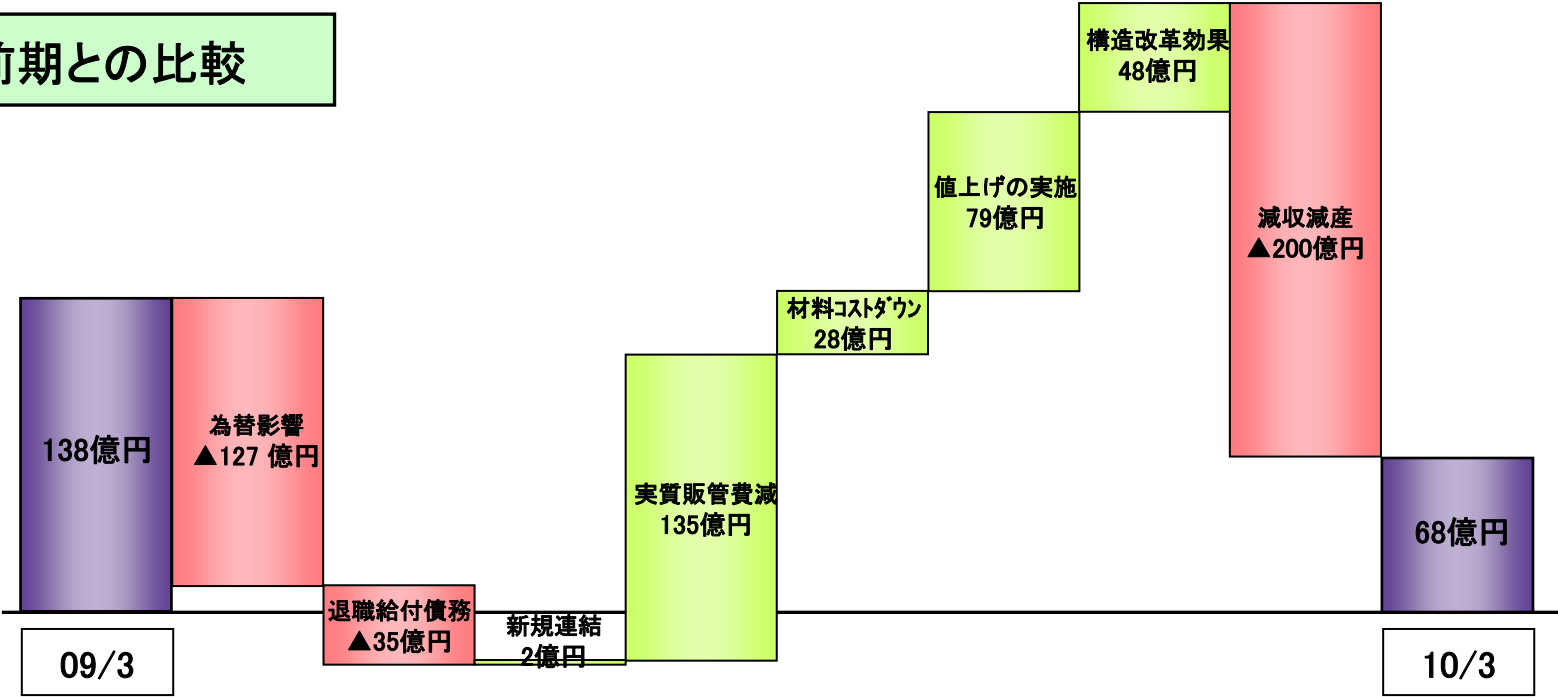
	為替影響額
前期比較	▲188億円 (楽器▲148億円、AV・IT▲39億円、 電子部品▲1億円)
前回予想 比較	+3億円 (楽器+2億円、AV・IT+1億円)

	為替影響額
前期比較	▲127億円 (楽器▲104億円、AV・IT▲24億円、 電子部品+1億円)
前回予想 比較	+3億円 (楽器+3億円、AV・IT+1億円)

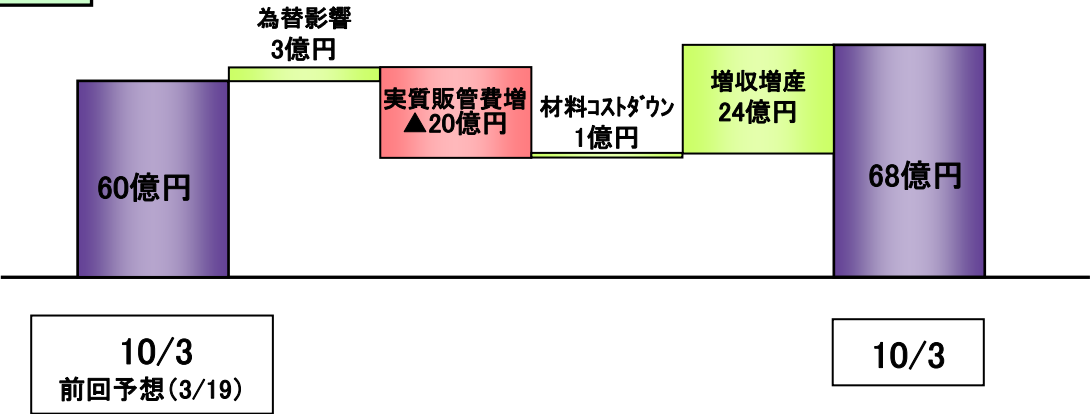
2010/3期 営業利益増減要因



前期との比較



前回予想との比較

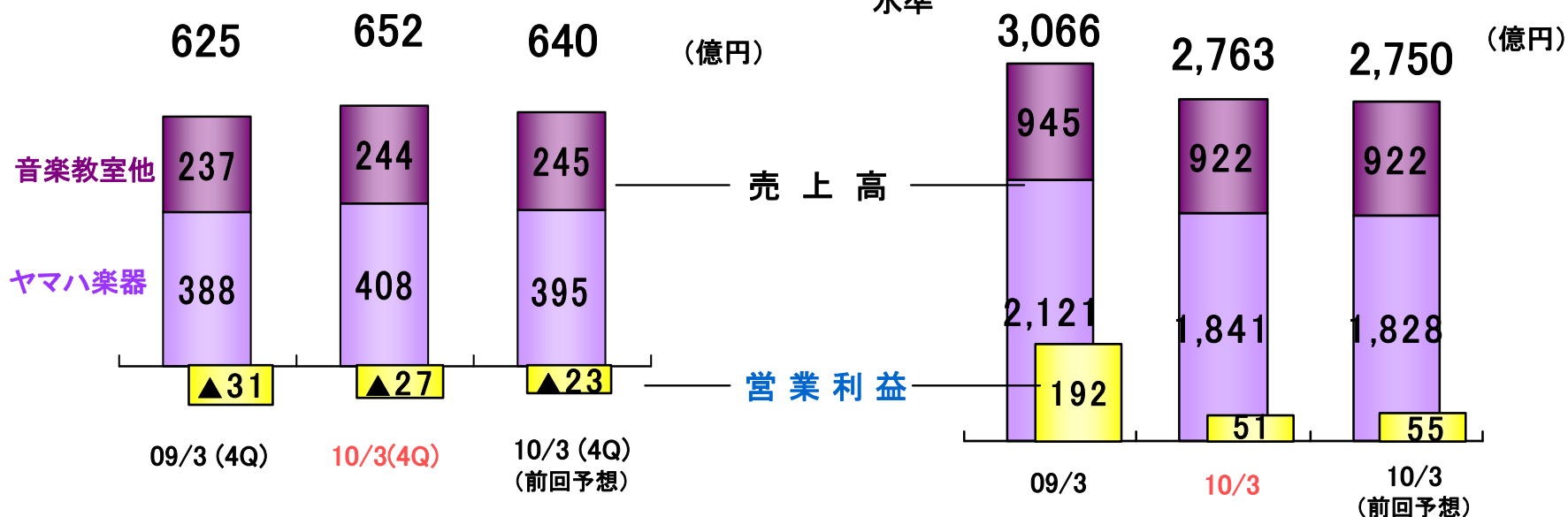


4Qの状況

- ・対前年同期増収増益。前回予想との比較では増収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比1.9% (12億円) の増収。前回予想との比較では、実質1.6%の増収
- ・北米市場は鍵盤楽器を中心に底入れの兆し。欧州は景気回復に遅れ。中国堅調。アジアパシフィック市場は回復傾向
- ・商品別には、ピアノ、電子楽器が回復傾向。設備音響機器は引き続き低調

通期の状況

- ・対前期減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、値上げ効果はあったものの、新規連結33億円を含め、前期比5.1% (155億円) の減収
- ・北米は前期比6%の実質減収。欧州も12%の実質減収。日本は前期比5%の減収。中国等新興市場は成長継続
- ・商品別には、管楽器、PA機器が対前期9%の減収。ピアノは、中国で引き続き2桁増となるものの、欧州、日本の先進国市場で大幅な減少。米国市場は回復の兆し。アコースティックギターは新商品効果もあり、シェア拡大
- ・営業利益は、経費削減効果はあるものの、減収に加え、為替損、退職給付債務利差損の発生等で対前期大幅減益
- ・期末在庫は、減産対応もあり、一部商品を除きほぼ適正水準

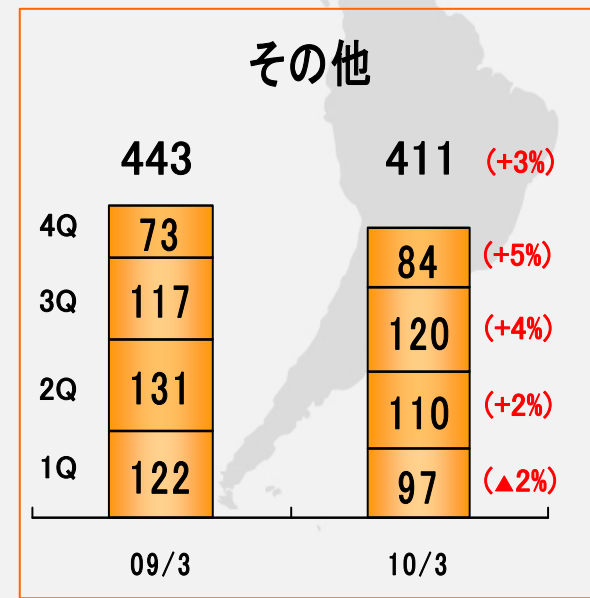
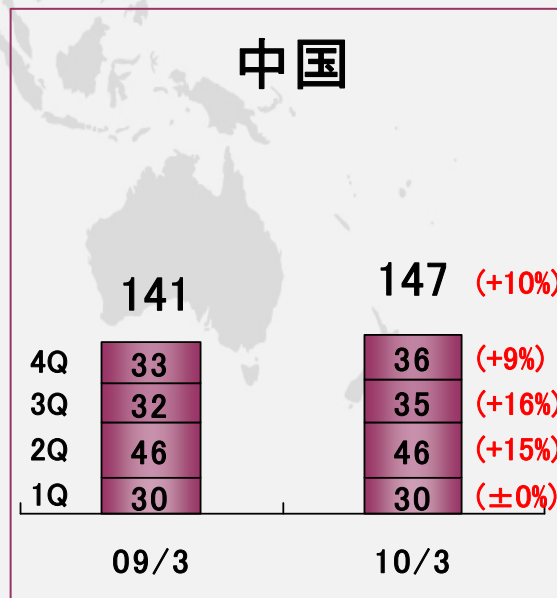
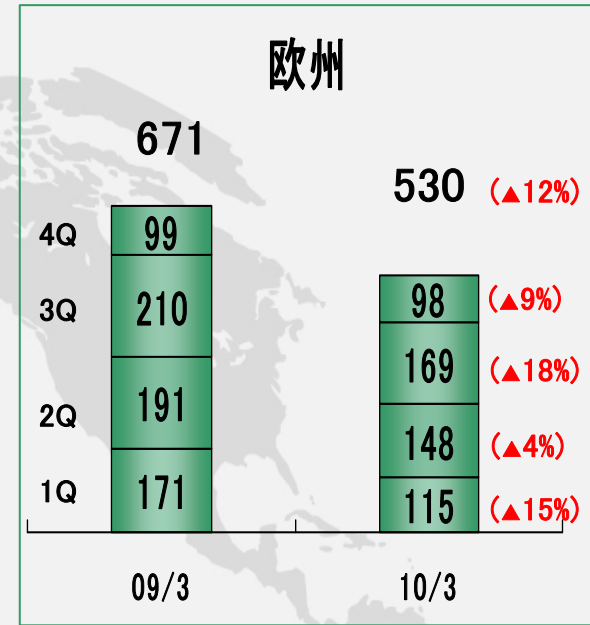
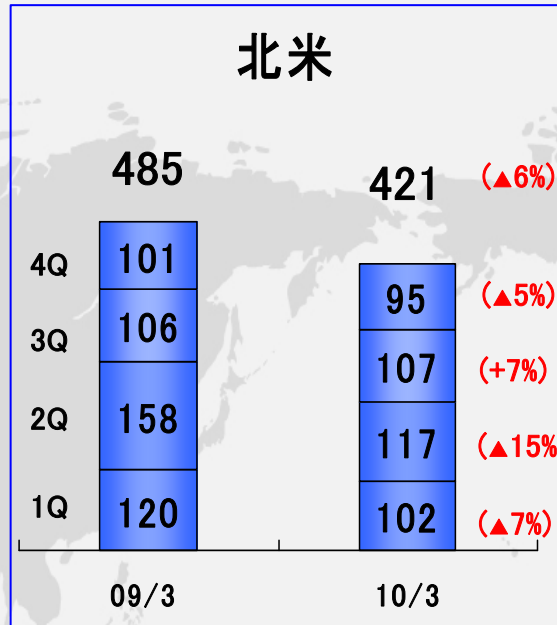
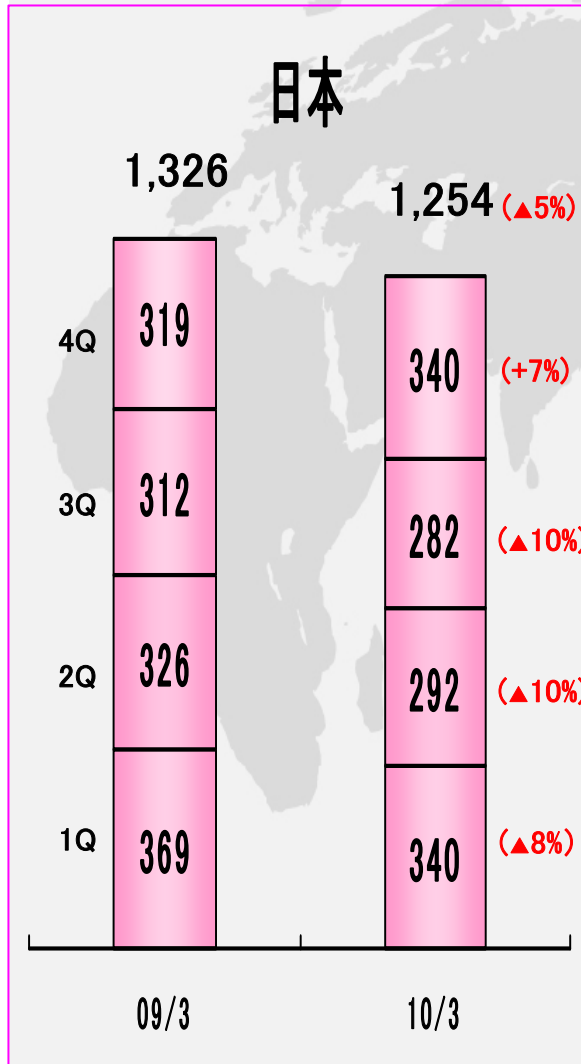


楽器事業(地域別の販売状況)



(億円)

*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

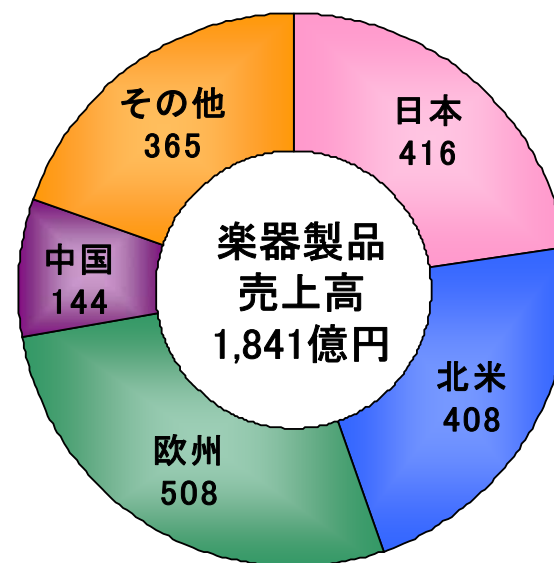


楽器事業(地域別の販売状況)



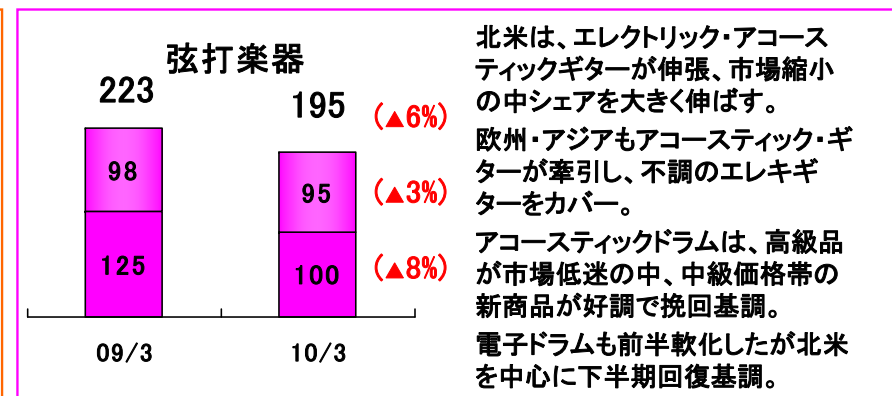
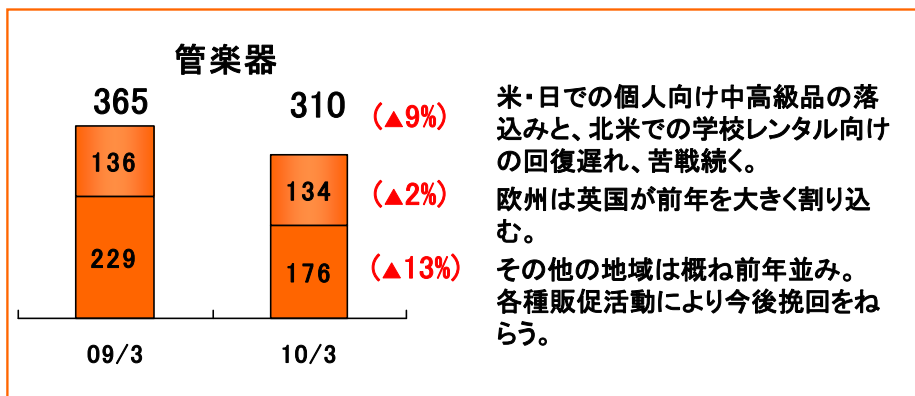
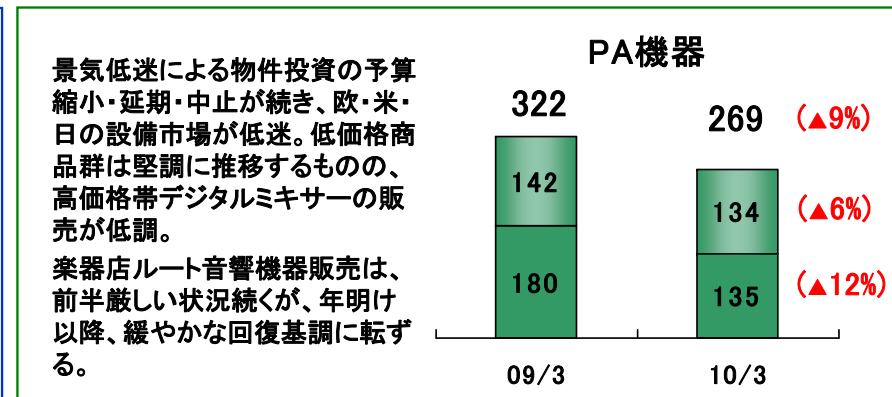
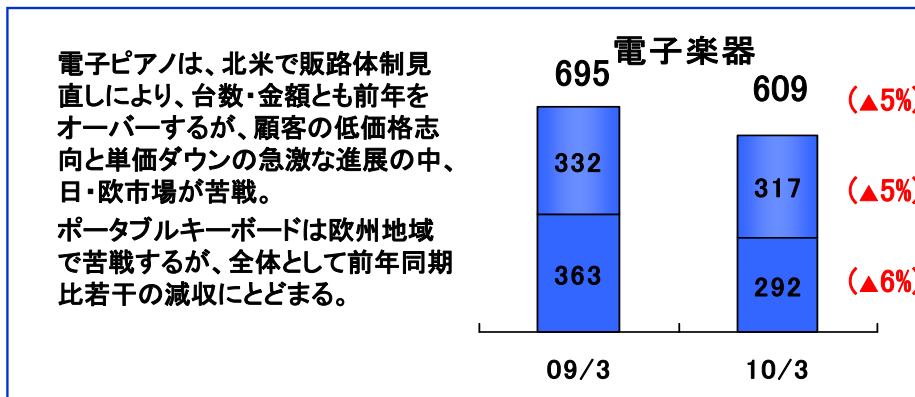
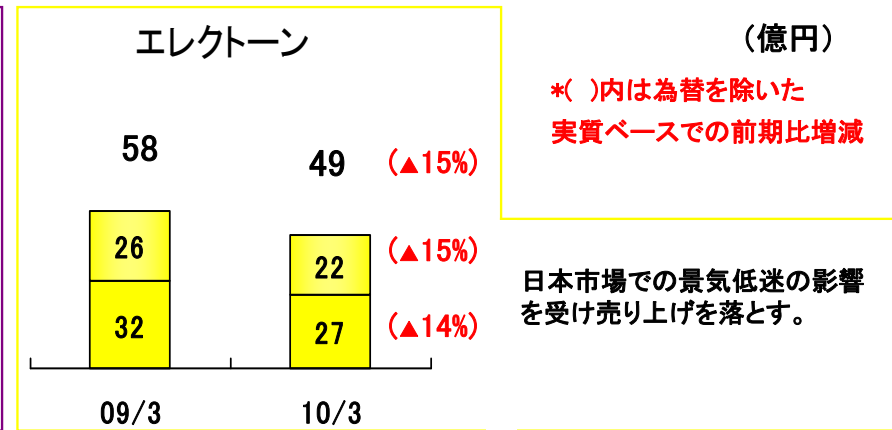
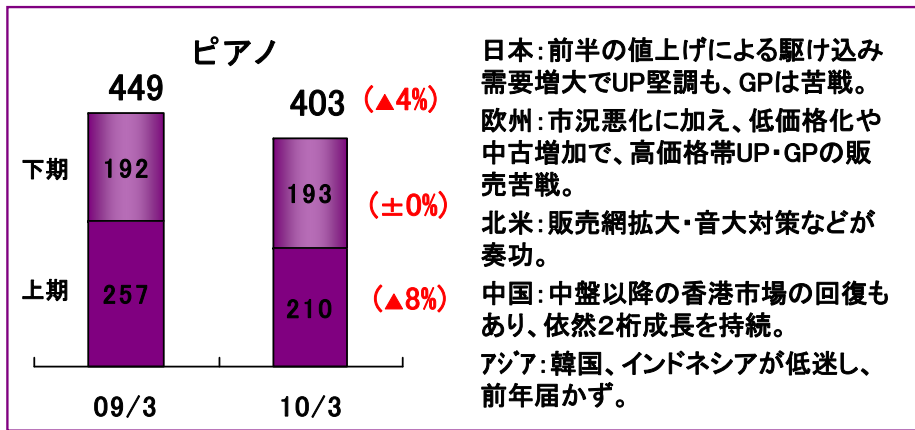
楽器地域別状況	
日本	顧客の低価格志向続き、中高級大型鍵盤の販売低迷。ピアノはサイレント新商品効果もありUPは堅調も、GPの受注低迷し苦戦。エレクトーンの前年割れ続く。電子ピアノは普及価格帯が堅調を維持するも中高級で苦戦。管楽器は期後半で底打ちの傾向。
北米	期後半での挽回により、ピアノ・電子ピアノ・ポータブルキーボードなど鍵盤楽器は前年を上回って堅調に推移するものの、高価格帯商品から低価格商品への需要シフト、また引き続き教育投資抑制による管楽器・教育打楽器の低迷、設備音響市場の投資冷え込みによる音響機器の販売低調により、通期では前年を下回る。
欧州	年末商戦ではクラビノーバCVP新モデルなどが健闘し、主要市場ドイツでは前年に迫る売り上げとなる。通年では廉価商品の拡大による低価格化が市場に進んだこと、東欧および南欧での経済危機の影響が大きいことから、欧州全体では前年割れ。
中国	ピアノ、ポータブルキーボードが好調に推移。特にピアノは2桁成長を維持し販売を牽引し、通期でも2桁成長を確保。香港市場はまだ回復とはいえない中、ヤマハは夏以降前年を上回って好調に推移。販売網整備、大都市以外への販路開拓、商品ラインアップ充実で、更に拡販を目指す。
その他の地域	ピアノ・CA製品とポータブルキーボードが苦戦したがギター・電子ピアノで伸長。アジアは韓国・台湾で苦戦、東南アジア堅調、中南米はブラジル・メキシコ回復だがその他中南米諸国が総じて苦戦。豪州は市況もよく好調。インド・ロシアは売上伸長するも目標は下回る。

楽器製品売上高
の地域別内訳



2010年3月期

楽器事業(商品群別の販売状況)

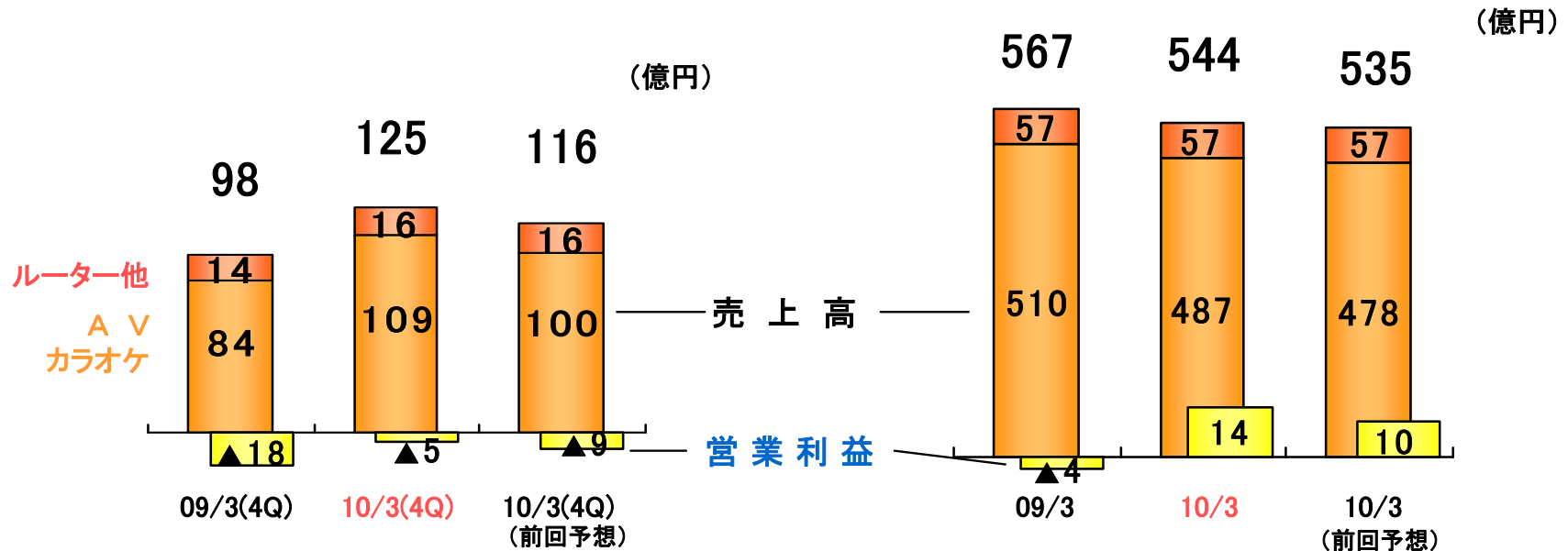


4Qの状況

- ・対前年同期、前回予想とも増収増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比22.4% (22億円)の増収
- ・営業利益は、増収と経費削減効果により対前年同期、前回予想とも増益
- ・国内のフロントサラウンド商品は引き続き堅調に推移
- ・通信カラオケは新商品開発に注力

通期の状況

- ・製品内製化と材料コストダウン、経費削減により対前期増益
- ・為替要因を除いた実質売上高は前期比2.8% (16億円)の増収
- ・AV機器の実質売上高は期後半で挽回を図るも北米が前期比7%の実質減収。欧州は2%の減収
- ・日本はフロントサラウンド商品が、期を通じて好調継続し、前期比2桁の成長
- ・IT関連機器(通信カラオケ機器、ルーター、会議システム)は、ほぼ前期並みの売り上げ
- ・期末在庫はほぼ適正水準

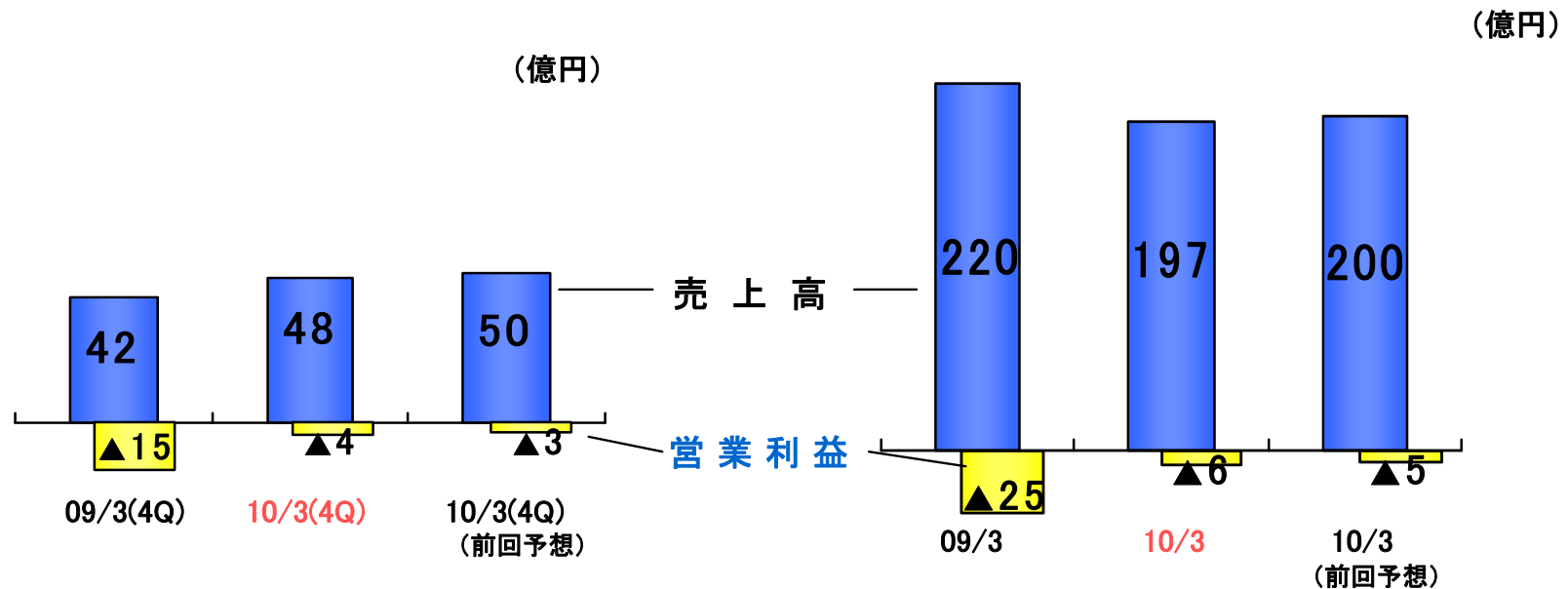


4Qの状況

- ・対前年同期増収増益。一方、対前回予想では減収減益
売り上げ未達は商品開発の遅れが主因
- ・携帯電話用音源LSIは減少継続。車載、デジタルアンプは
販売増

通期の状況

- ・対前期減収増益
- ・主力の携帯電話用音源LSIは引き続き対前期減少。
国内では携帯電話の需要減少、海外ではソフト化の
進行による。デジタルアンプは販売増
- ・前期実施の固定資産の減損による減価償却費の減少
と売上構成の変化等により、赤字幅縮小



リビング事業

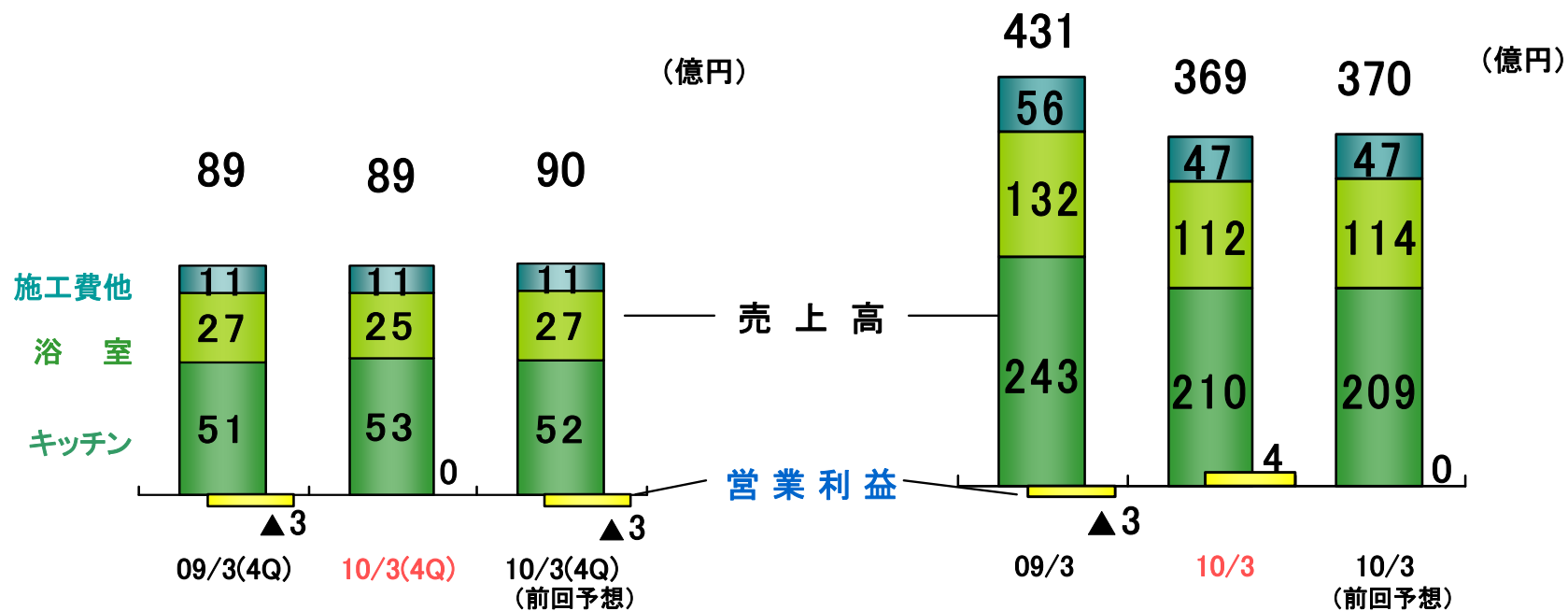


4Qの状況

- ・売上高は対前年同期微増
- ・営業利益は、徹底した経費削減効果により、黒字化を達成
- ・年明け後の新築住宅着工数は前年同期比約9%の減少と減少幅縮小。うち、持家住宅は対前年同期微増

通期の状況

- ・対前期減収増益
- ・対前期大幅な減収となるものの、製造コストダウン及び経費削減効果による損益分岐点の引き下げで営業黒字化
- ・2009年度の新築住宅着工数は、前年同期比約25%の減少
- ・リフォームビジネス強化策の展開により、リフォーム比率は前期に続き上昇(前期21%→25%)
- ・3/31にて、過半の株式を投資ファンドへ譲渡



その他の事業

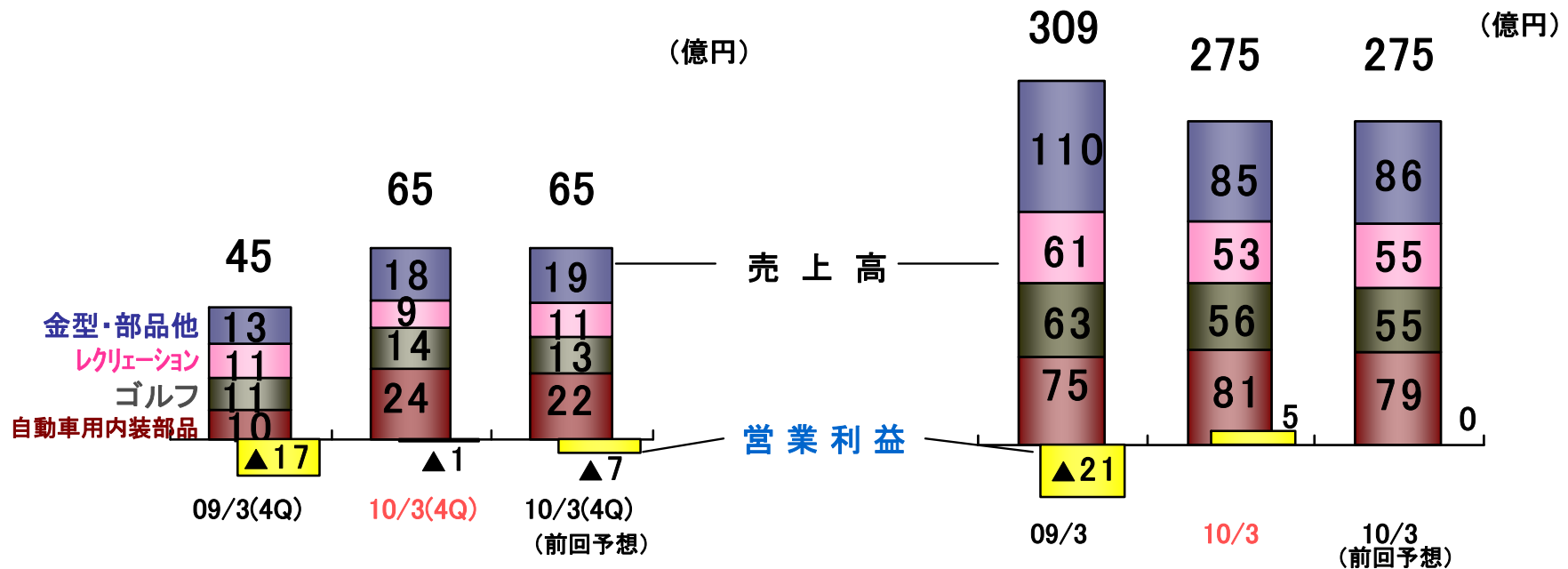


4Qの状況

- ・対前年同期増収増益
- ・対前回予想では、売り上げはほぼ予想通りだが、損益は大幅な改善
- ・自動車用内装部品は市況の回復で対前年同期大幅な増産
- ・ゴルフは国内、海外市場とも、やや上向き傾向

通期の状況

- ・通期黒字化。対前期大幅な損益改善
- ・自動車用内装部品は市況回復による増産で対前期増収増益。一方、FAは企業設備投資抑制で減収減益
- ・ゴルフは対前期減収。損益は経費削減効果もあり増益
- ・レクリエーションは宿泊を中心とする集客数の減少で対前期減収
- ・マグネシウム部品の国内生産は3月末で終了



2011/3期の事業環境と業績見通し



事業環境

- 中国、新興国での景気回復を見込むものの、米・欧・日は不透明感継続
- 円高基調は継続
- 材料価格は上昇傾向

業績見通し

- 対前期、減収増益の予想。最終利益は3期ぶりに黒字の計画
- リビングおよびマグネシウム部品事業影響(▲416億円)および為替影響(▲62億円)を除いた実質売上高は、前期比4.8%(+180億円)の増収計画
- 中期経営計画初年度として、将来の成長に向け、経営基盤の整備

2011/3期 業績予想



(億円)

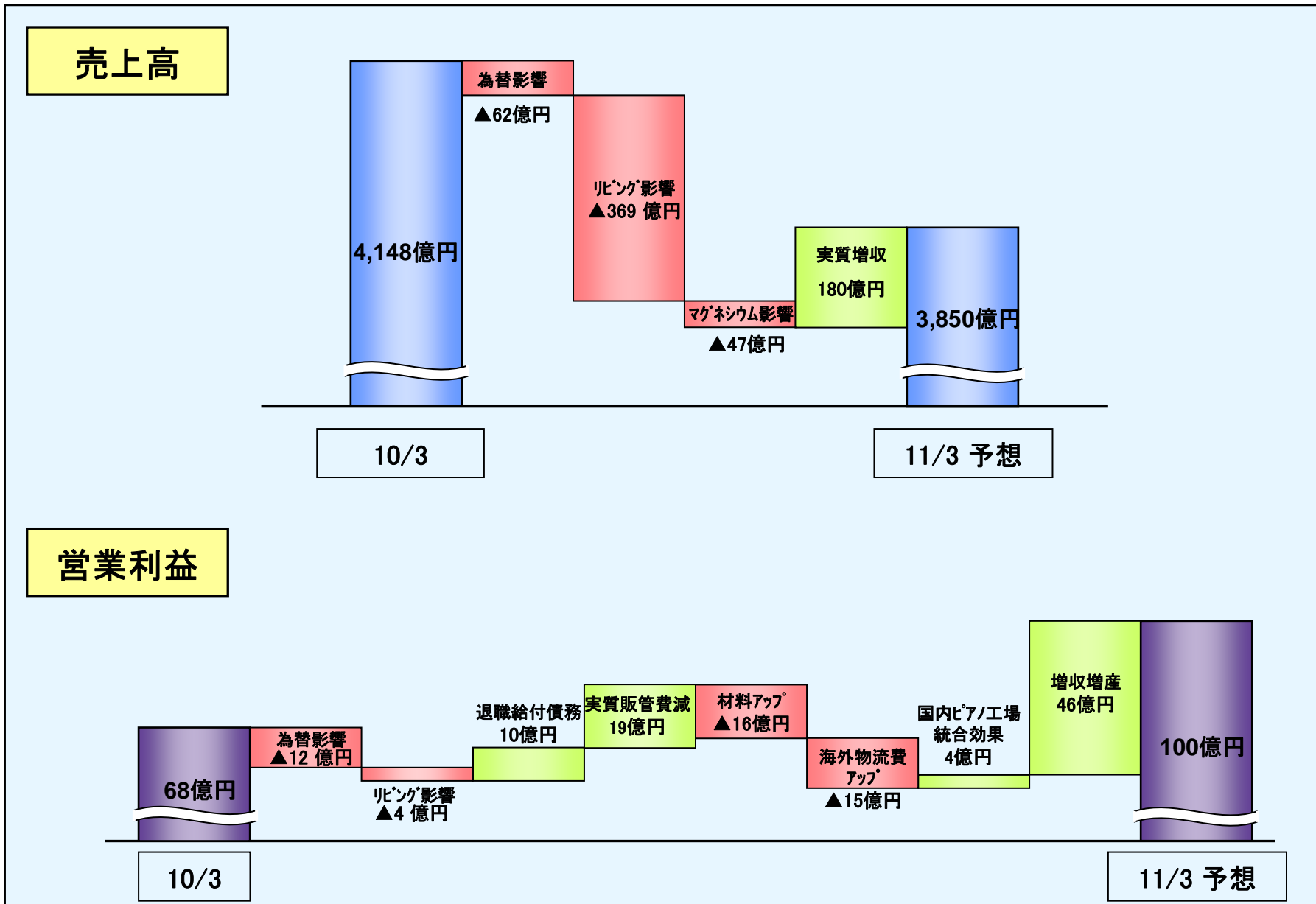
	10/3 実績	11/3 予想	増減額	伸び率
売上高	4,148	3,850	▲298	▲7.2%
営業利益 (営業利益率)	68 (1.6%)	100 (2.6%)	+32	+46.5%
経常利益 (経常利益率)	49 (1.2%)	75 (1.9%)	+26	+52.7%
当期利益 (当期利益率)	▲49 (-)	55 (1.4%)	+104	—

為替レート

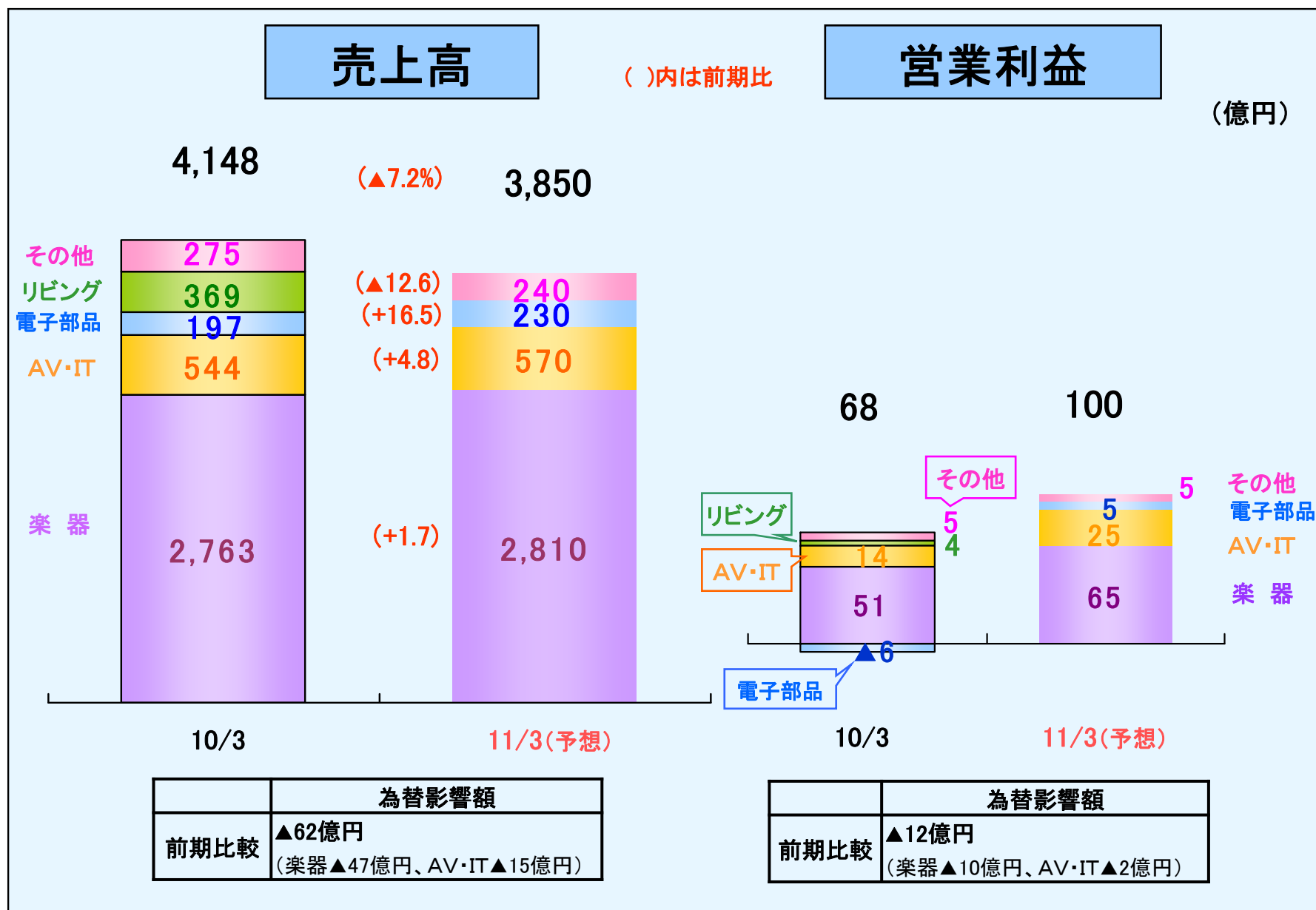
(円)

売上高	US\$	93	90
	EUR	131	127
利益	US\$	93	90
	EUR	130	127

2011/3期 売上高・営業利益増減要因



2011/3期 事業別業績予想

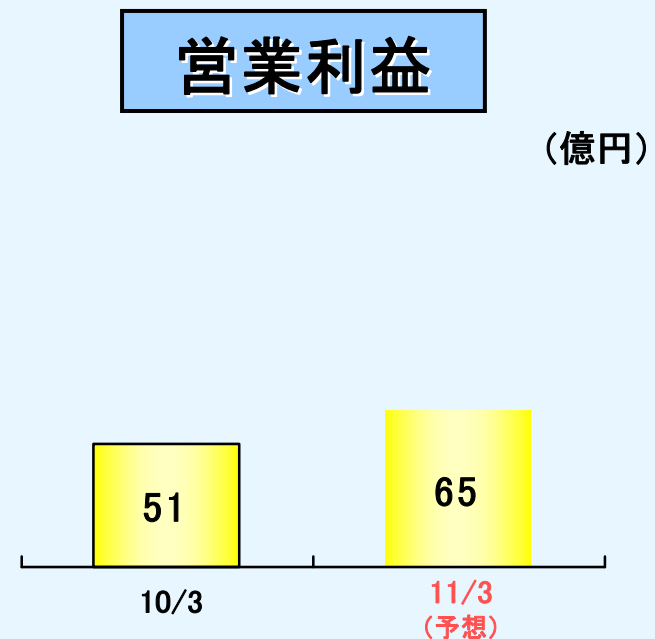
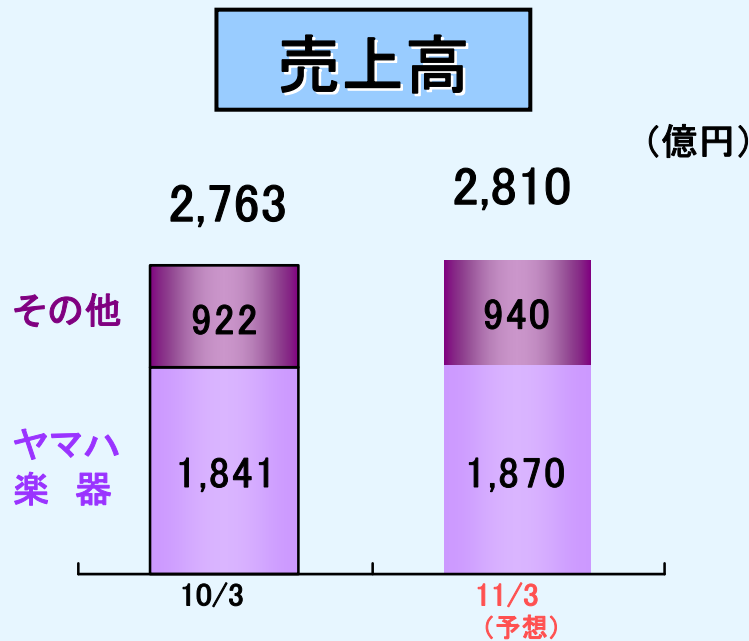


■市場環境

- ・世界的な景気回復の遅れ
- ・こだわり志向と低価格志向へ消費の二極化
- ・流通再編進行(大型店、量販店シェア拡大、Web販売)

■重点施策

- ・中国を含む新興市場での拡販
- ・市場動向に合わせた最適生産体制への布石
 - 中国、インドネシア工場増産
 - 国内ピアノ工場一元化(8月)
 - 管楽器国内生産一元化の準備
 - インドネシア製ピアノの国内市場導入
- ・新製品のタイムリーな市場投入

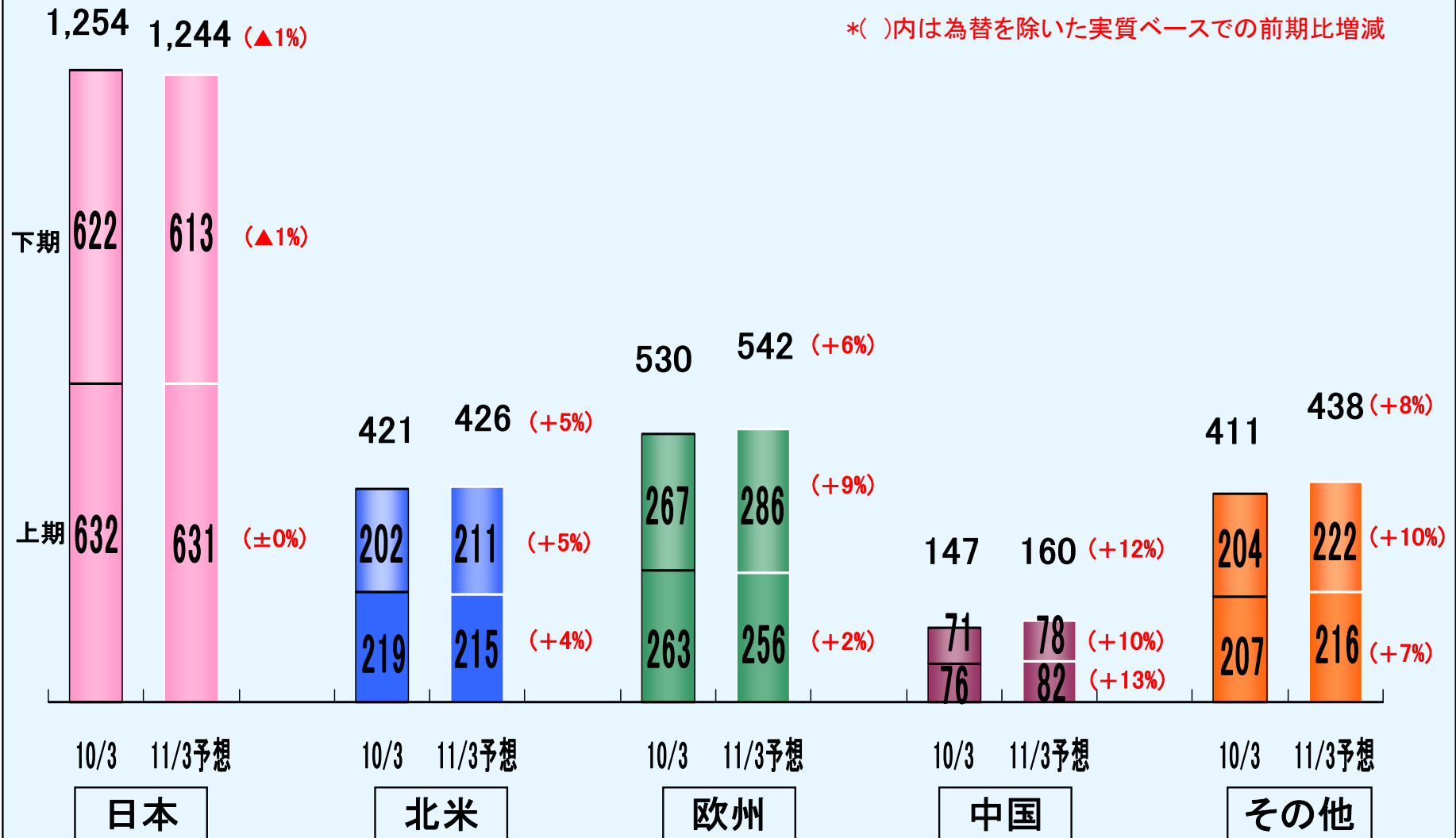


楽器事業(地域別の販売予想)



(億円)

* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

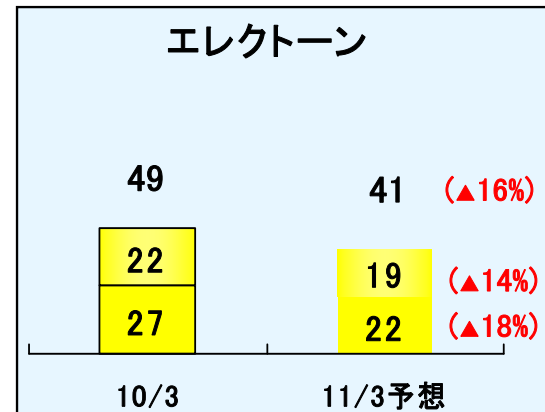
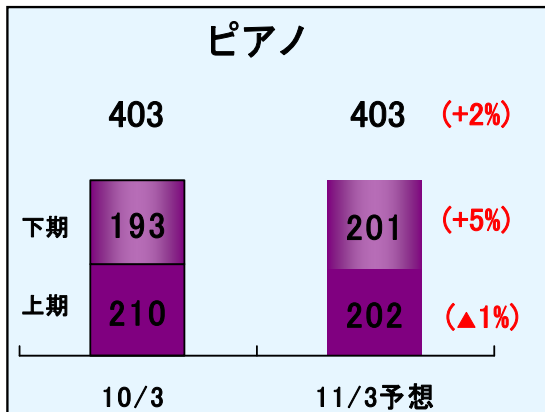


楽器事業(商品群別の販売予想)

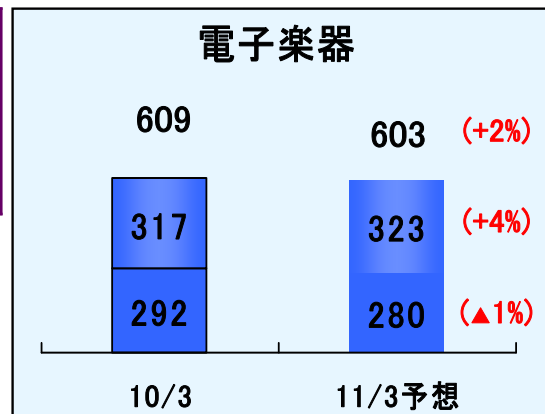


(億円)

*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

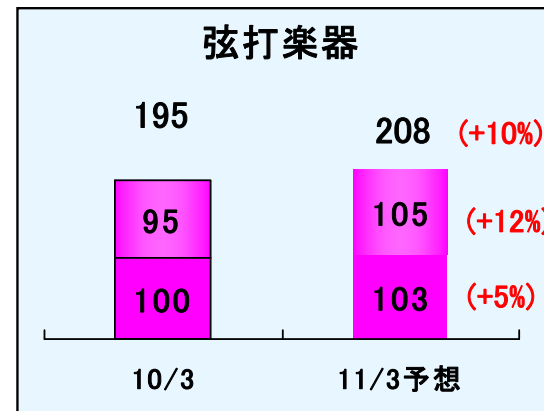
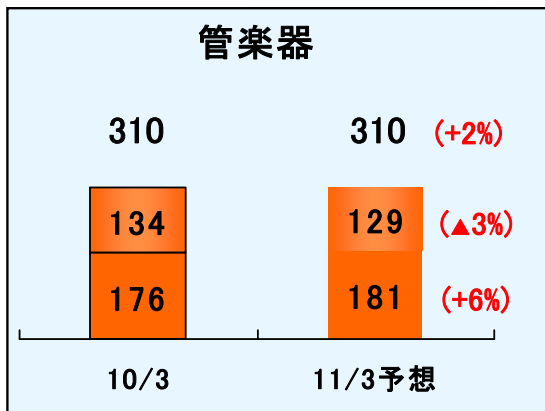
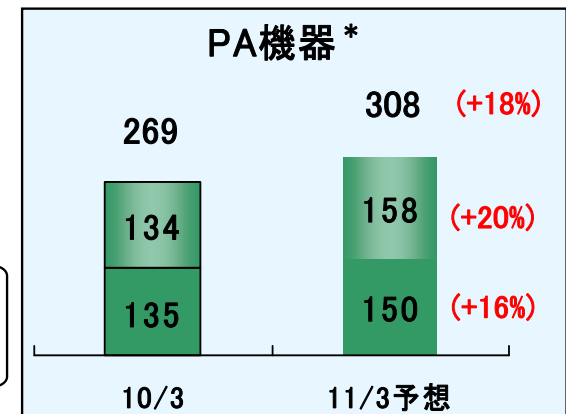


ピアノ売上台数	10/3	11/3予想
日本	14,700	14,100
海外	75,200	81,600
合計	89,900	95,700

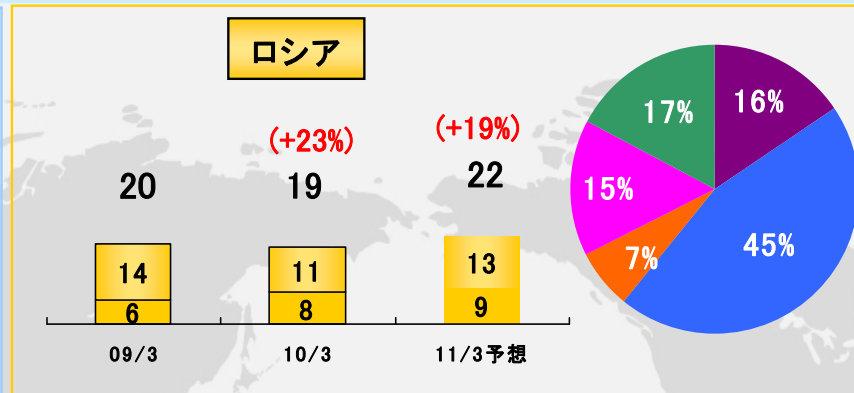
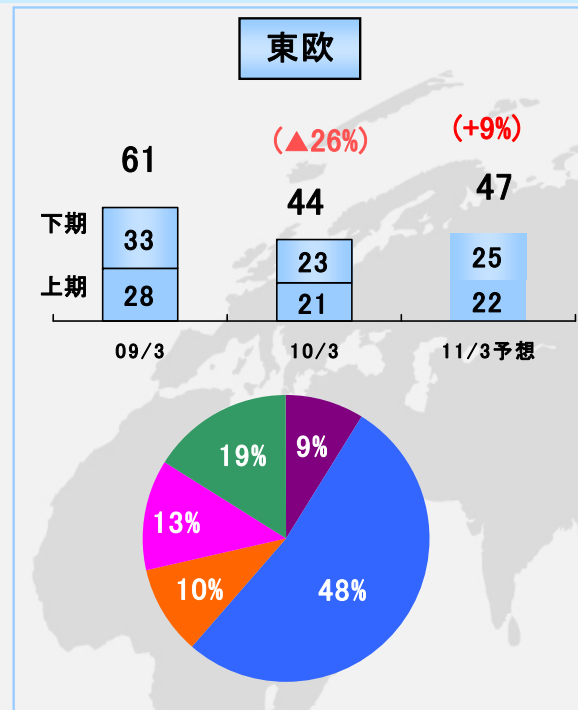


*11/3期(予想)
より音楽制作市場商品(ソフト・ハード)を電子楽器からPA機器へ組み替え

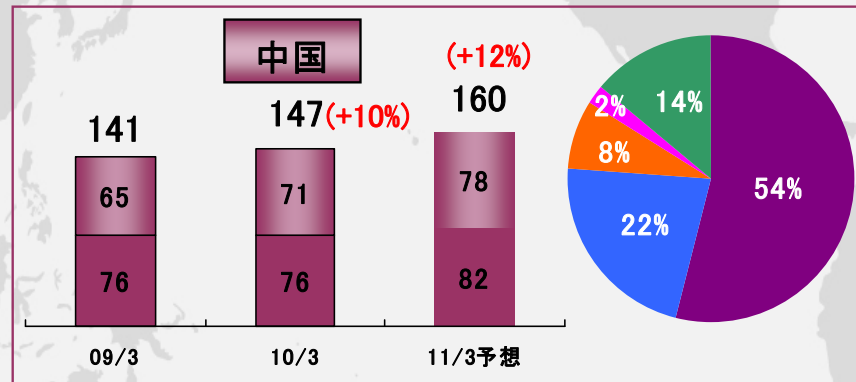
組み替え前では、
対前期
電子楽器+5%
PA機器+6%



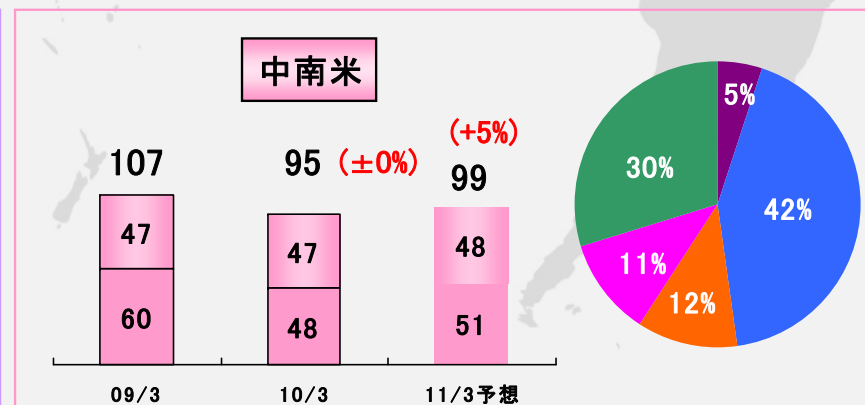
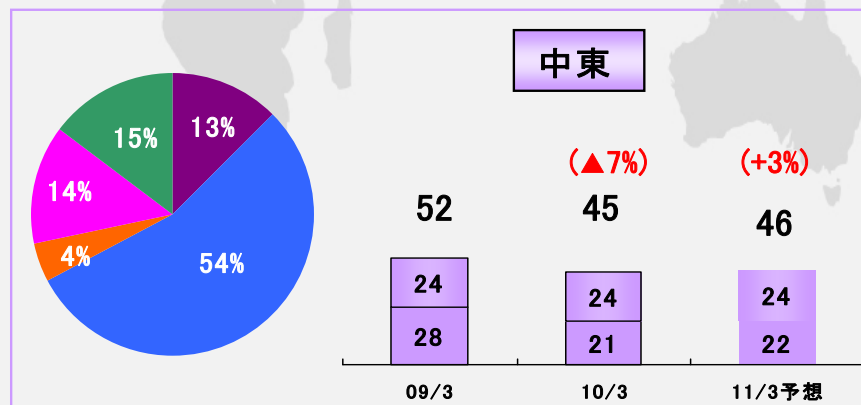
新興市場の販売状況



- (億円)
- ピアノ
 - 電子楽器
 - 管楽器
 - 弦打楽器
 - PA



*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

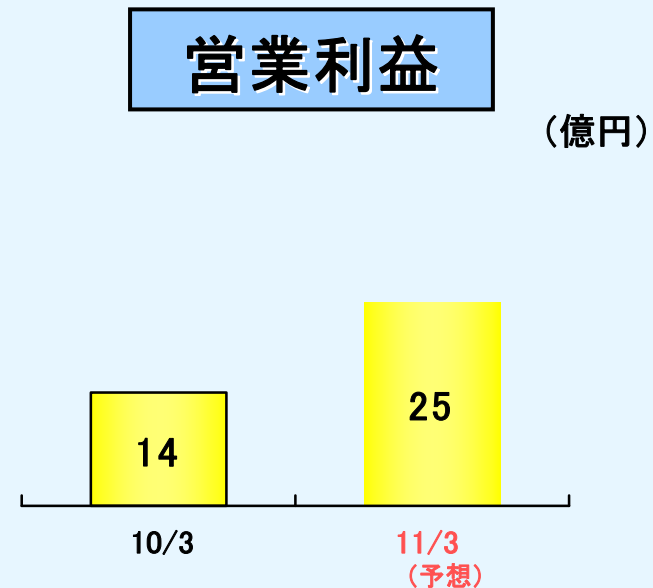
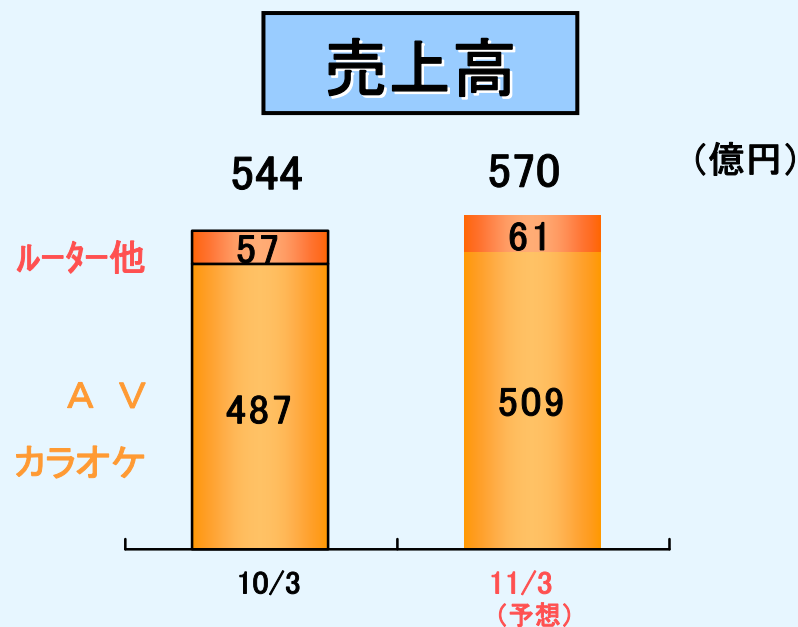


■市場環境

- ・フラットテレビは、緩やかに需要拡大
- ・HDMI、3Dなど機能、規格の差別化進行
- ・iPod普及に伴うデスクトップオーディオ市場拡大
- ・国内のSOHOルーター市場は頭打ち

■重点施策

- ・需要動向を把握した商品導入によるAVビジネスの成長
 - 中高級AVレシーバー拡販
 - ラック一体型スピーカーなどテレビ周辺商品機器の強化
 - デスクトップオーディオ等新ジャンル商品強化
 - 部品内製化促進と材料コストダウンによる製造原価の低減
- ・カラオケ次期モデルの開発
- ・ルーターは商品優位性の訴求によるシェア拡大
- ・会議システムは、Web会議用マイクスピーカーでのシェア拡大



■市場環境

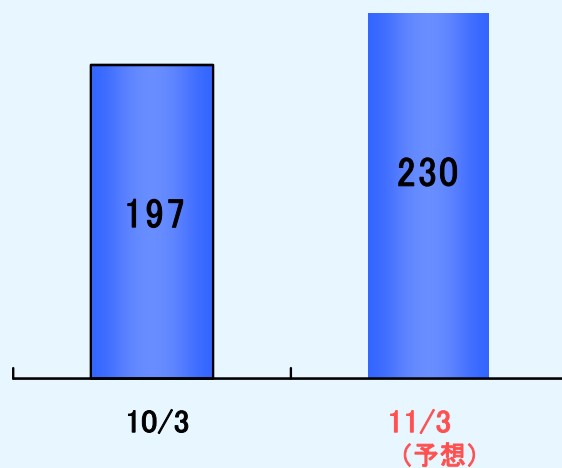
- ・国内携帯電話販売の減少。海外携帯電話のソフト音源化進行
- ・デジタル化に伴い、フラットテレビ市場は拡大するものの、低価格化進行
- ・自動車内のエレクトロニクス化進行

■重点施策

- ・固定費削減による収益力強化
- ・付加価値提供による携帯電話用音源LSIビジネスの維持
- ・デジタルアンプ拡販とアミューズメント音源、画像LSIの維持拡大
- ・車載画像ビジネス拡大

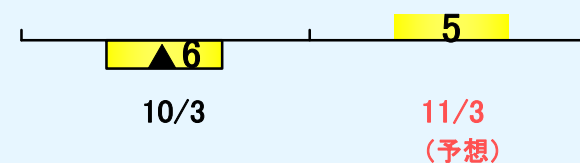
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



その他の事業



■市場環境

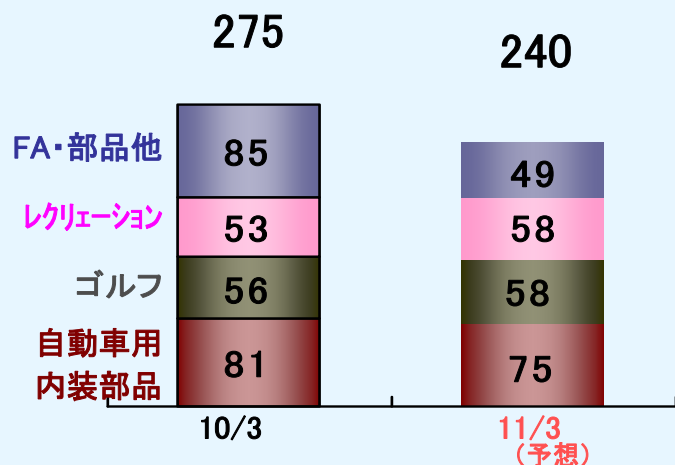
- ・高級自動車のモデルチェンジが一巡
- ・企業の設備投資回復の兆し
- ・レクリエーションは景気減速影響継続
- ・ゴルフ国内市場は減速継続。海外市場は緩やかな回復基調

■重点施策

- ・自動車用内装部品は一層の損益分岐点の引き下げにより収益確保
- ・ゴルフは市場ニーズに沿った競争力ある新製品の開発と営業力強化によるシェア拡大
- ・レクリエーション事業は施設の魅力を活かした商品企画の提案と固定費削減による黒字化を目標

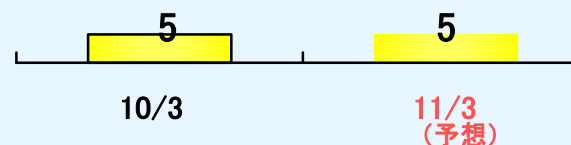
売上高

(億円)



営業利益

(億円)

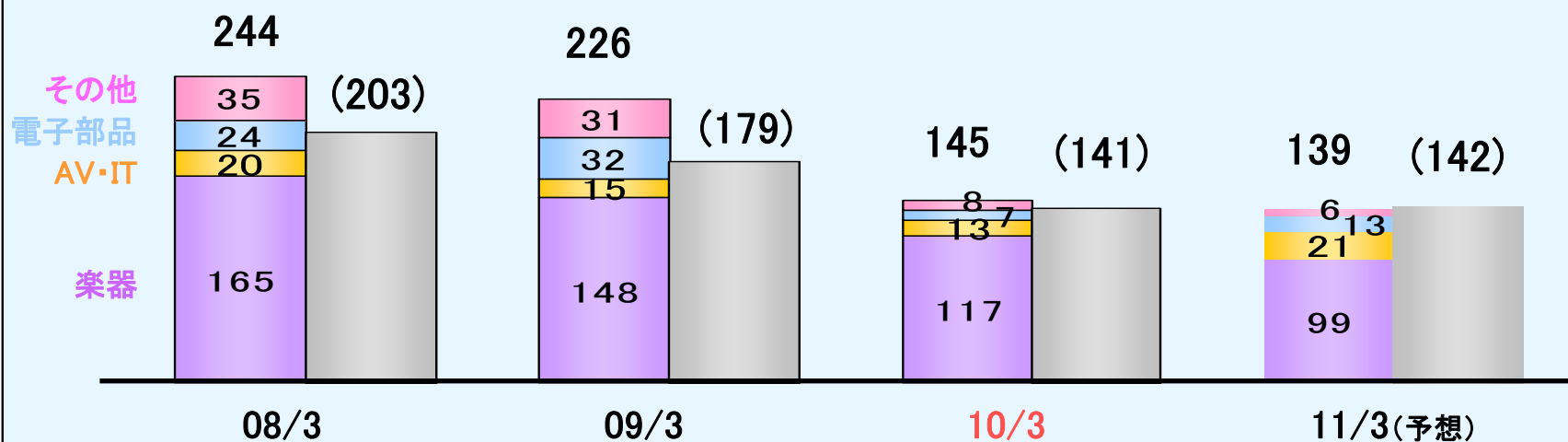


設備投資額・減価償却費/研究開発費

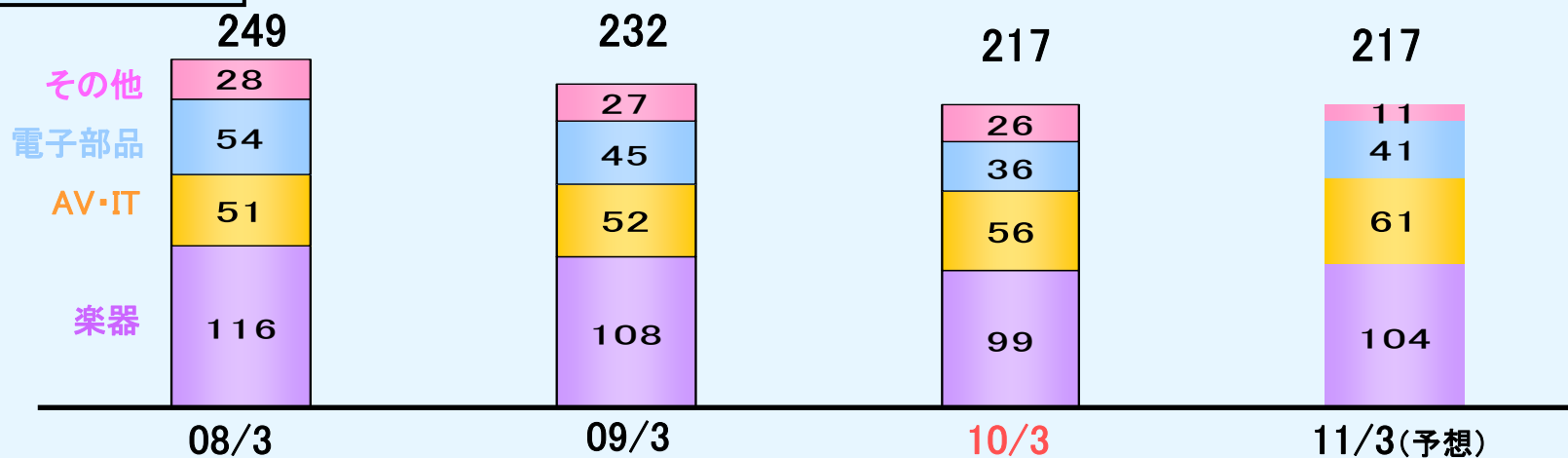


設備投資額(減価償却費)

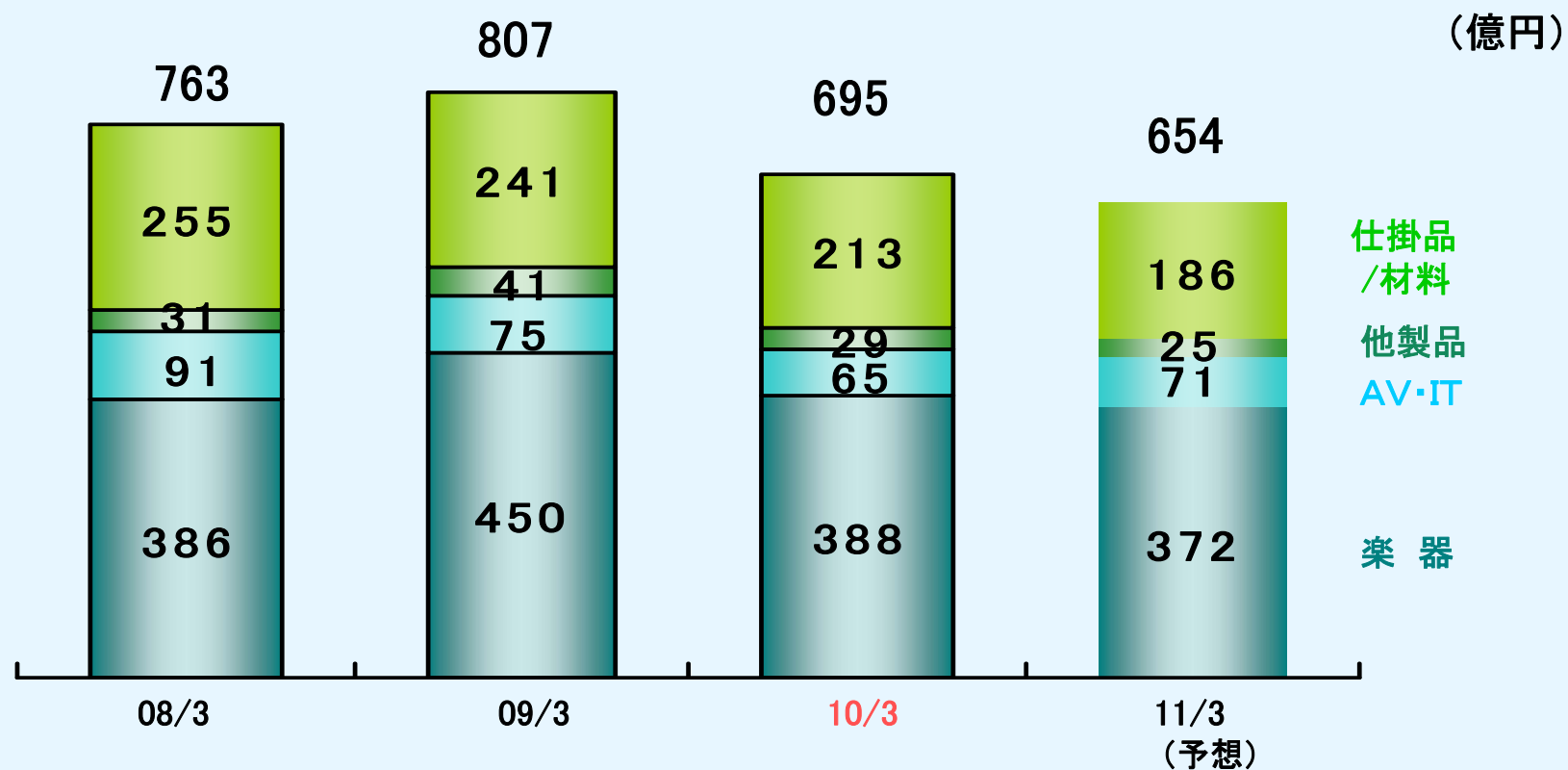
(億円)



研究開発費



棚卸資産



➤ 10/3末総在庫は対前期112億円の減少。
 (為替影響を考慮すれば実質108億円の減少)

予想貸借対照表



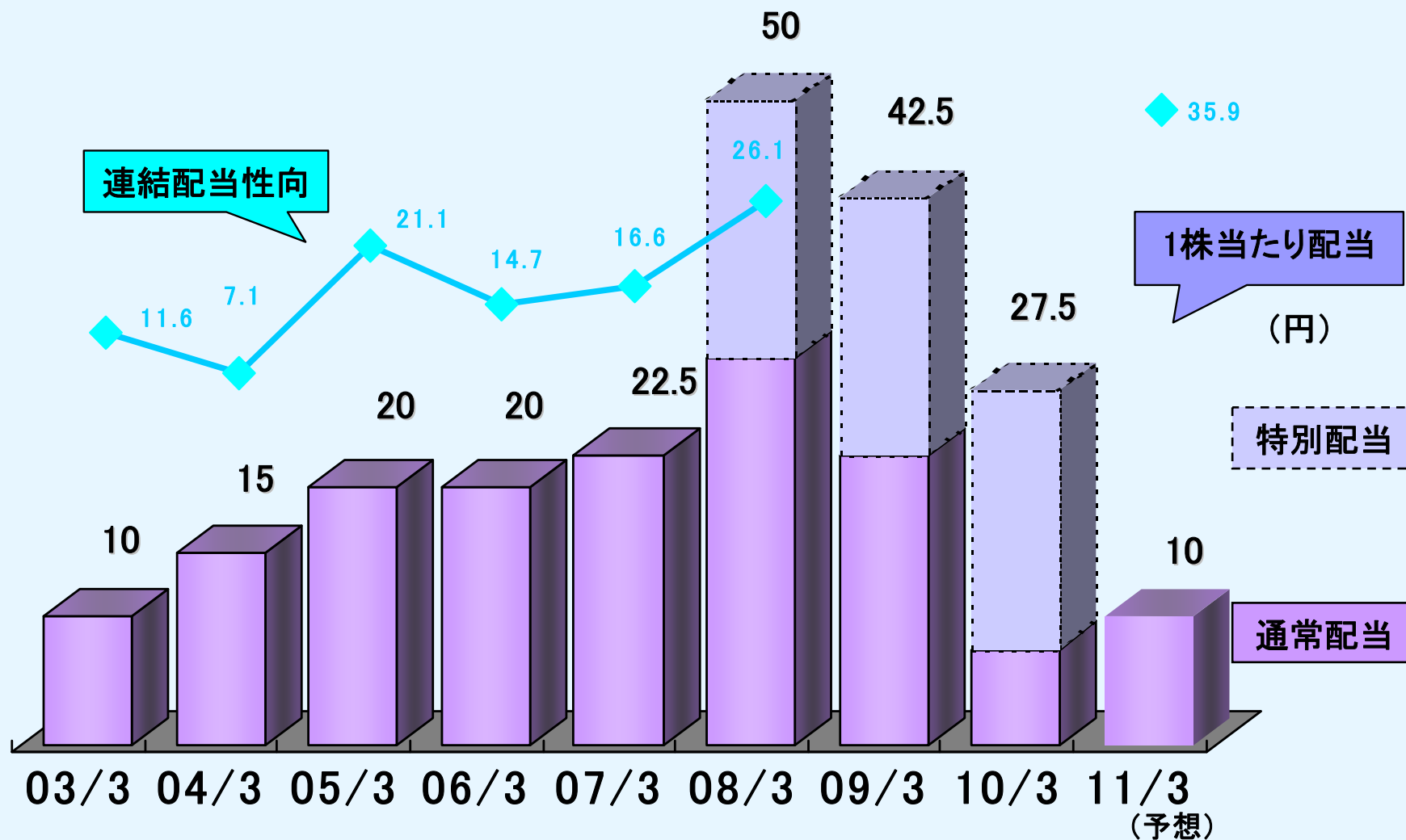
(億円)

	2008/3末	2009/3末	2010/3末	2011/3末予想
現預金	1,040	414	594	539
売上債権	651	505	474	516
棚卸資産	763	807	695	654
他流動資産	303	295	170	174
固定資産	2,646	2,069	2,089	2,056
資産計	5,403	4,090	4,022	3,939
仕入債務	350	256	218	211
借入金	210	192	150	113
リゾート預託金	170	167	161	161
他負債	1,243	957	947	954
純資産計	3,430	2,518	2,546	2,500
負債純資産計	5,403	4,090	4,022	3,939

※2008/3末現預金残高には譲渡性預金を含む

株主還元

➤2011/3期年間配当は、10円の予定(連結配当性向は36%)



付属資料

2010/3期 4Q業績



➤4Qは対前回予想増収増益

(億円)

	09/3 (4Q) 実績	10/3 (4Q) 実績	前年 同期比	前回予想 (10/3/19)	前回予想比
売上高	899	979	+9.0%	961	+1.9%
営業利益	▲84	▲37	—	▲45	—
経常利益	▲90	▲39	—	▲48	—
当期利益	▲300	▲79	—	▲80	—

為替レート

(円)

売上高	US\$	94	91	90
	EUR	122	125	127
利益	US\$	93	90	90
	EUR	128	131	127

2010/3期 4Q事業別業績

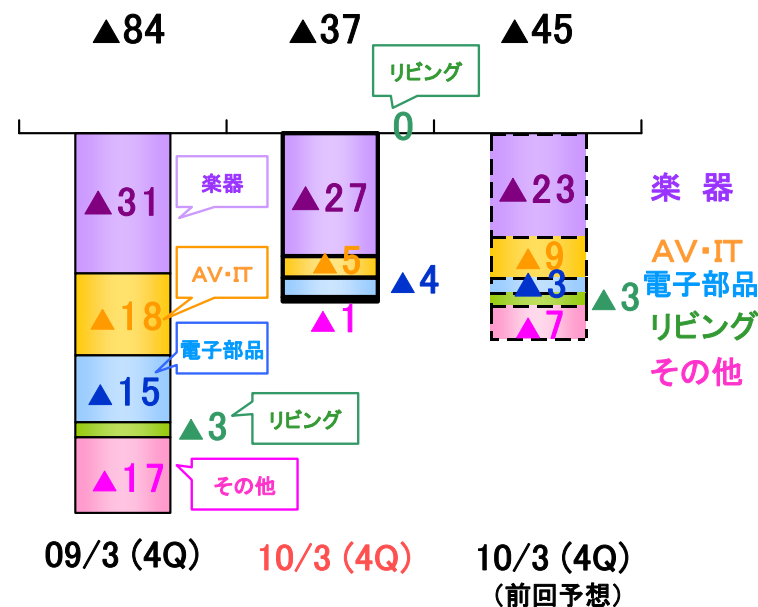
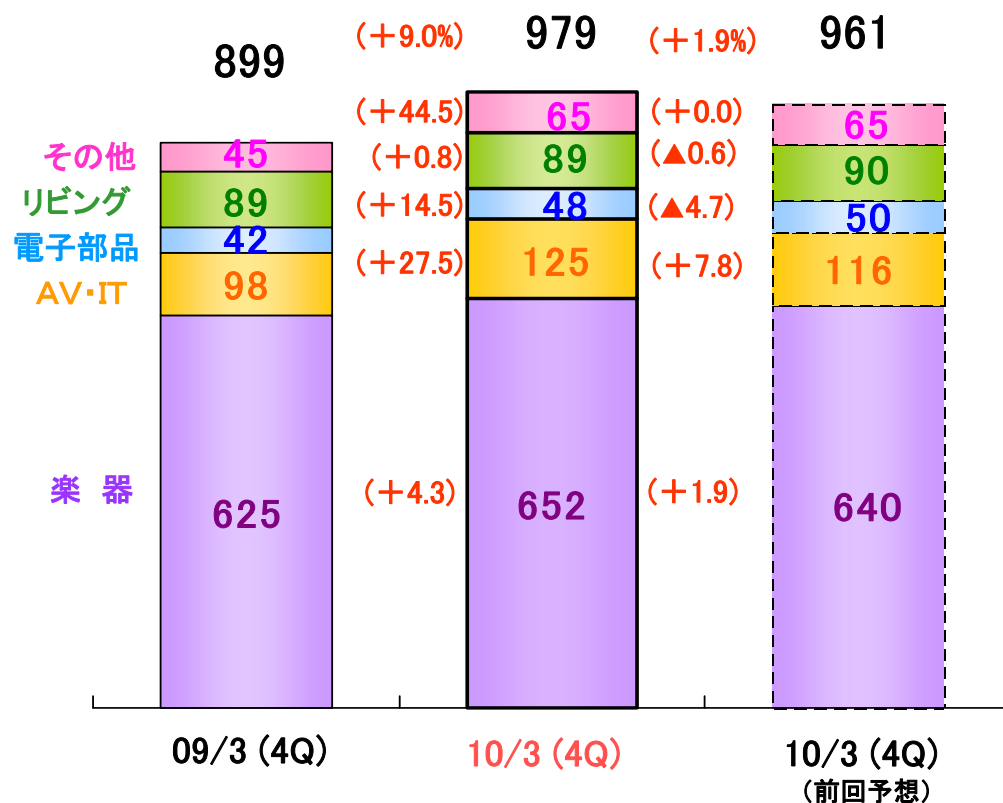


売上高

()内は前年同期比
または
前回予想比

営業利益

(億円)



	為替影響額
前年同期比較	+20億円 (楽器+15億円、AV・IT+5億円)
前回予想比較	+3億円 (楽器+2億円、AV・IT+1億円)

	為替影響額
前年同期比較	+11億円 (楽器+7億円、AV・IT+4億円)
前回予想比較	+3億円 (楽器+3億円、AV・IT+1億円)

営業外損益、特別損益



	09/3実績	10/3実績	11/3予想
(億円)			
営業外損益			
金融収支	20	3	0
その他	▲38	▲22	▲25
計	▲18	▲19	▲25
特別損益			
固定資産処分損益	▲7	0	▲1
その他	▲235	▲51	▲4
計	▲242	▲51	▲5
法人税他			
法人税等	38	31	26
法人税等調整額	49	13	▲13
少数株主利益	▲3	4	2
計	84	47	15

・ヤマハ発動機配当金 11

・減損損失 ▲153
 ・構造改革費用 ▲49
 ・関係会社出資金評価損 ▲33

・ヤマハリビングテック譲渡 ▲22
 ・減損損失 ▲20
 ・インドネシア過年度関税 ▲6

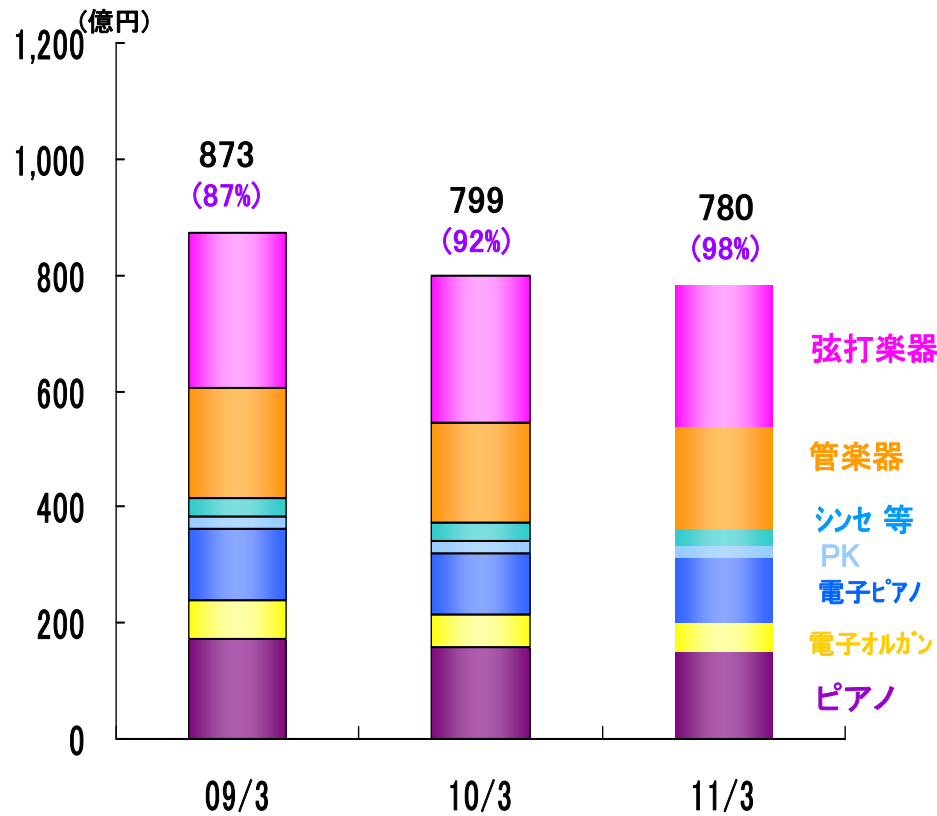
国内市場楽器売上高



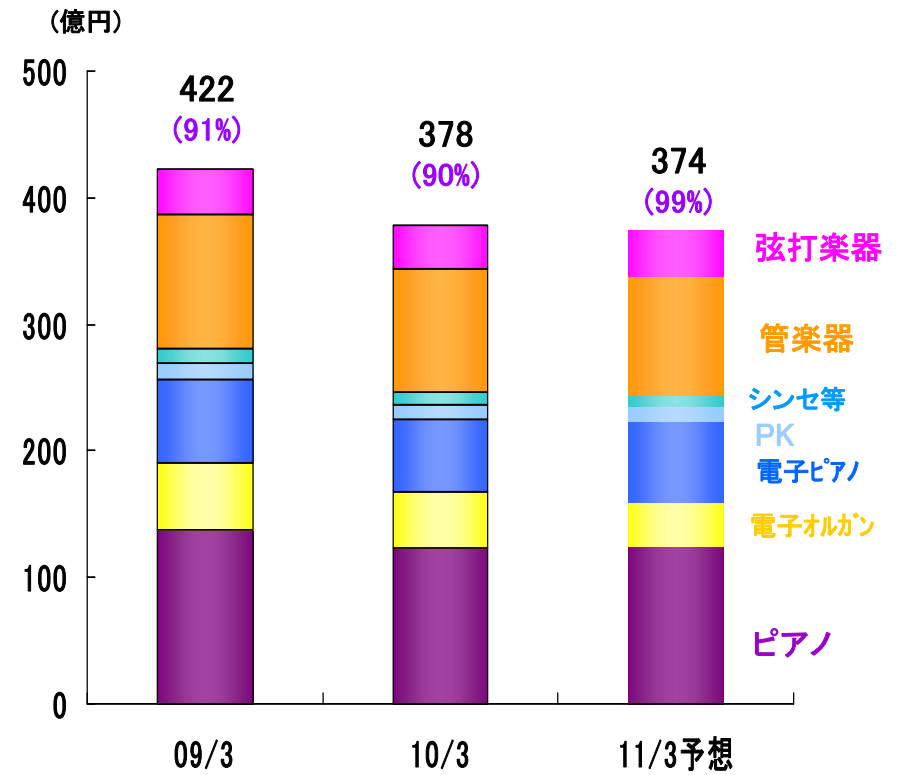
国内市場楽器卸売上高

()内は前期比

ヤマハ卸売上高



推定



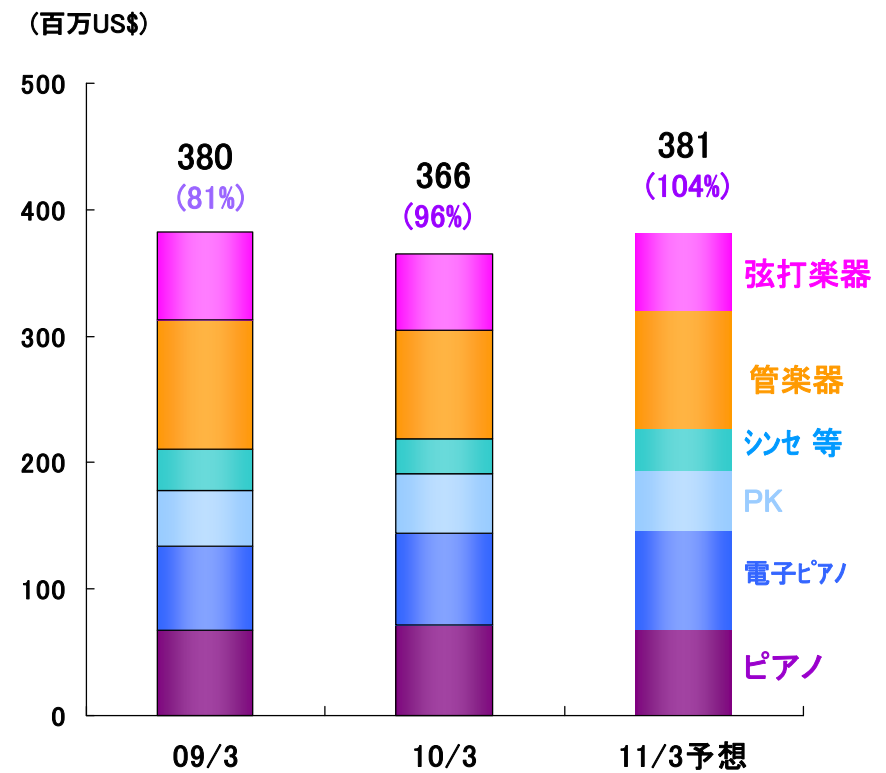
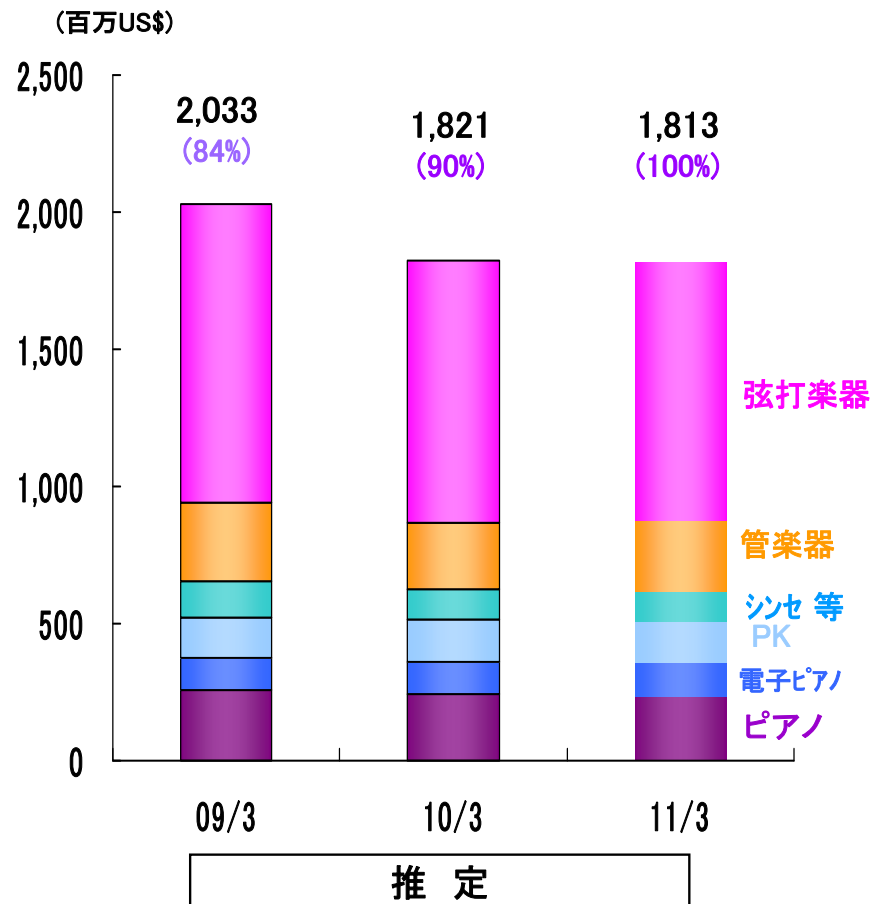
北米市場楽器売上高



北米市場楽器卸売上高

ヤマハ卸売上高

()内は前期比



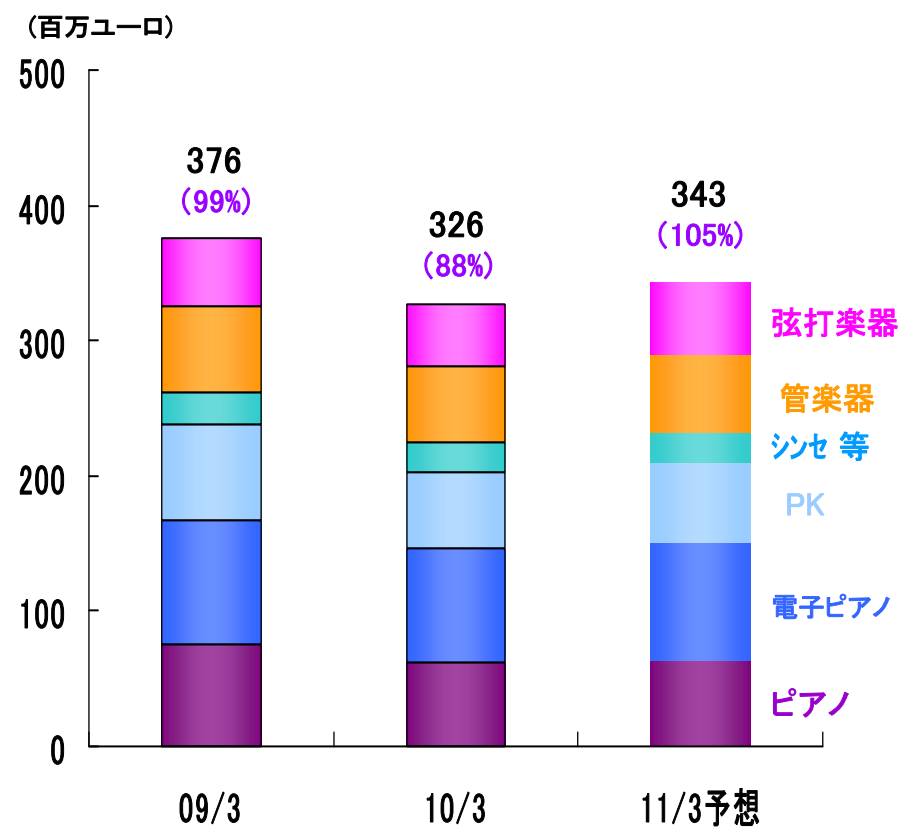
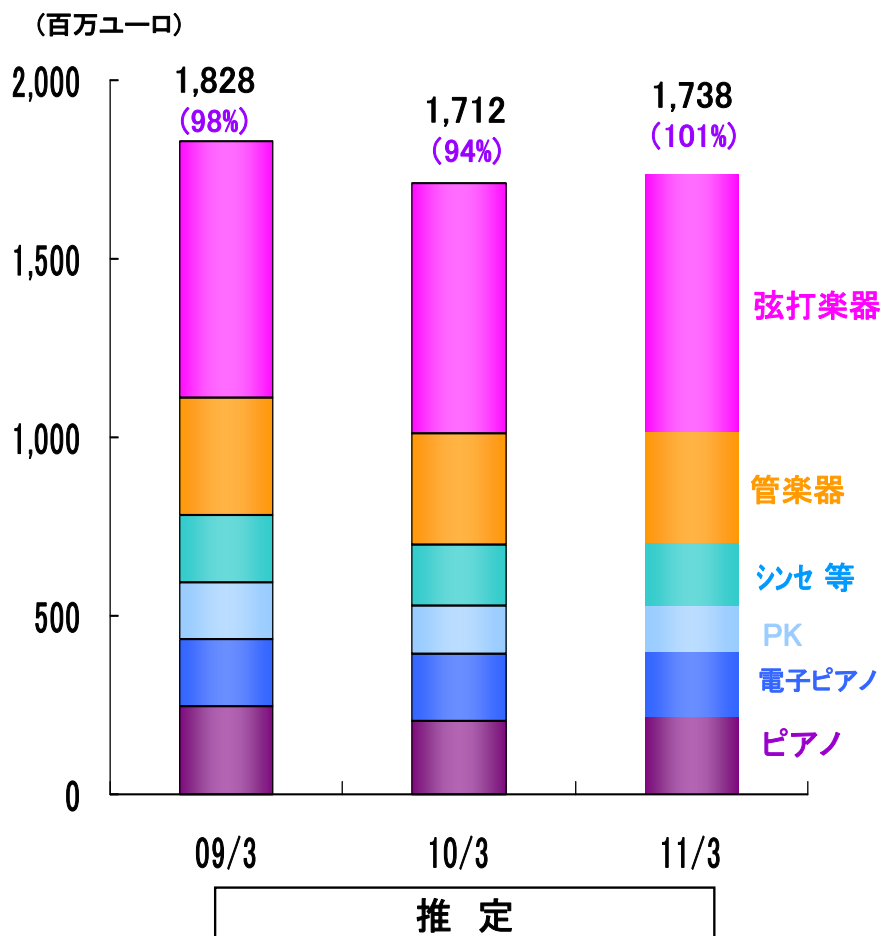
欧州市場楽器売上高



欧州市場楽器卸売上高

()内は前期比

ヤマハ卸売上高



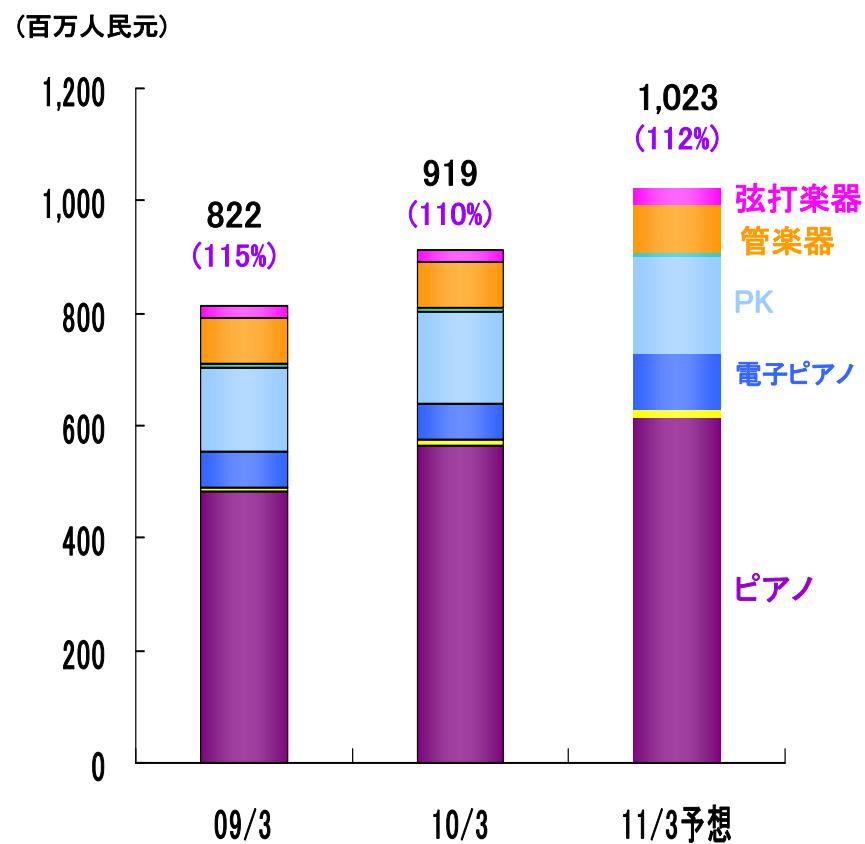
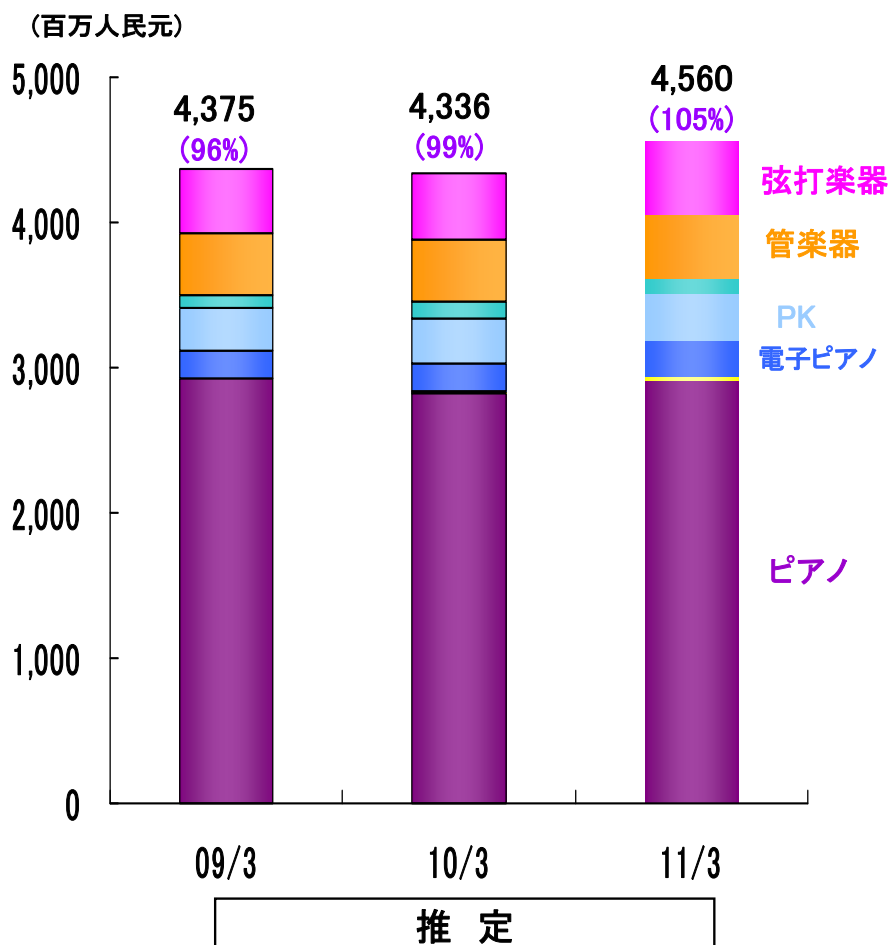
中国市場楽器売上高



中国市場楽器卸売上高

ヤマハ卸売上高

()内は前期比



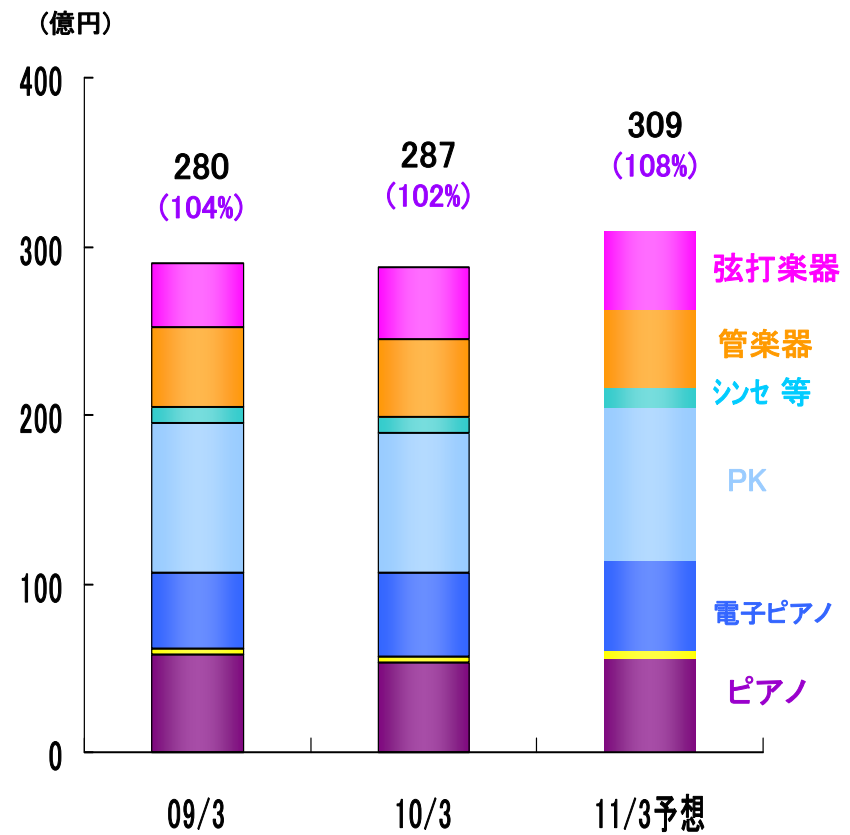
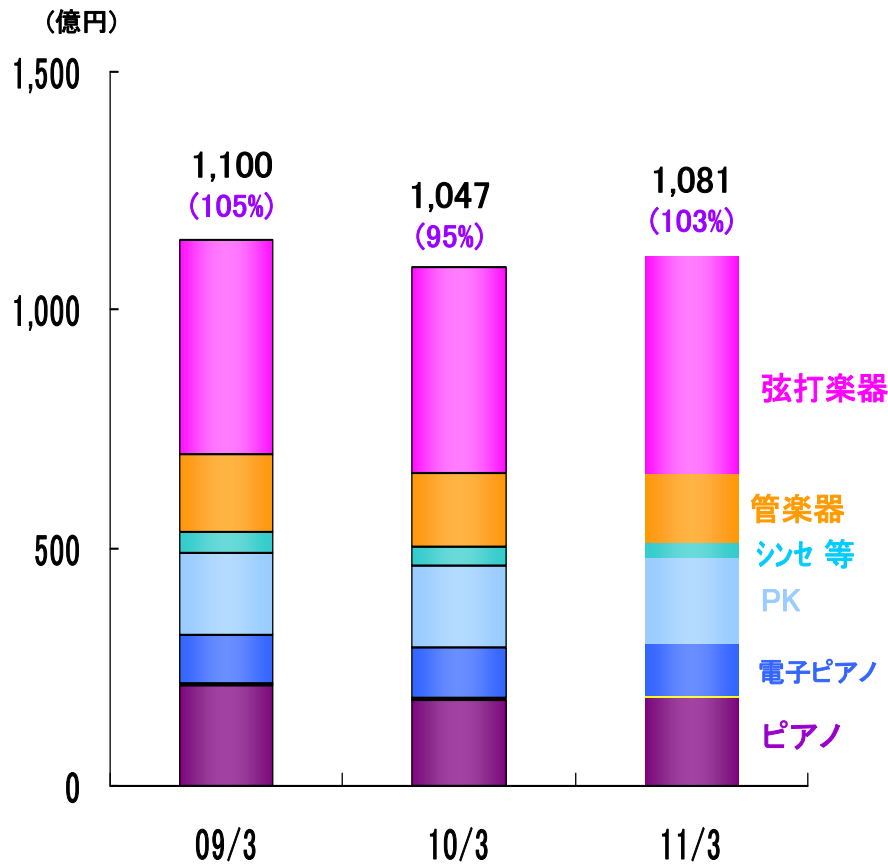
その他地域楽器売上高



その他地域楽器卸売上高

()内は前期比
※ロシア含む

ヤマハ卸売上高



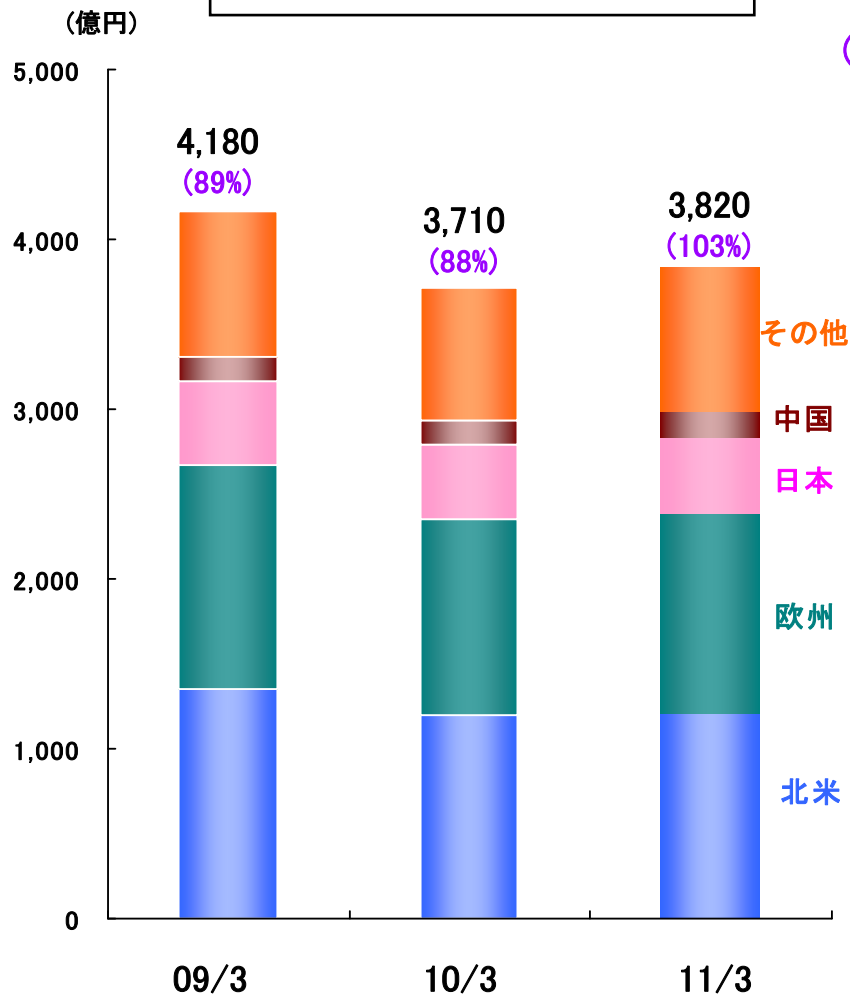
推定

* 各事業年度の売上高は、傾向を見るため、US\$=90円換算値

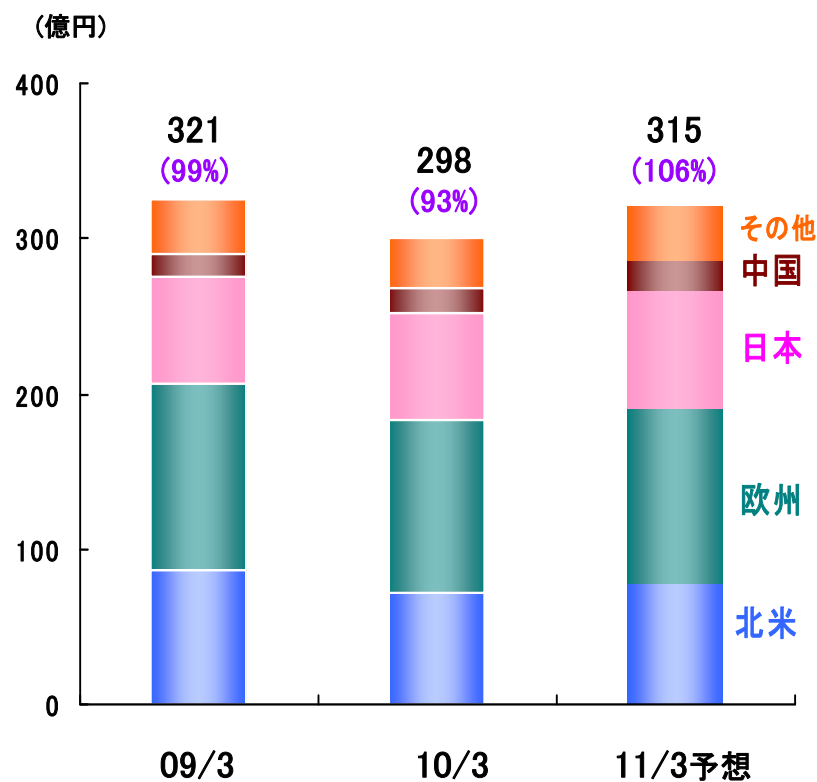
全世界PA機器売上高



PA世界市場卸売上高



ヤマハ卸売上高



推定

* 各事業年度の売上高は、傾向を見るため、US\$=90円、EUR=120円換算値

楽器四半期別売上高／営業利益

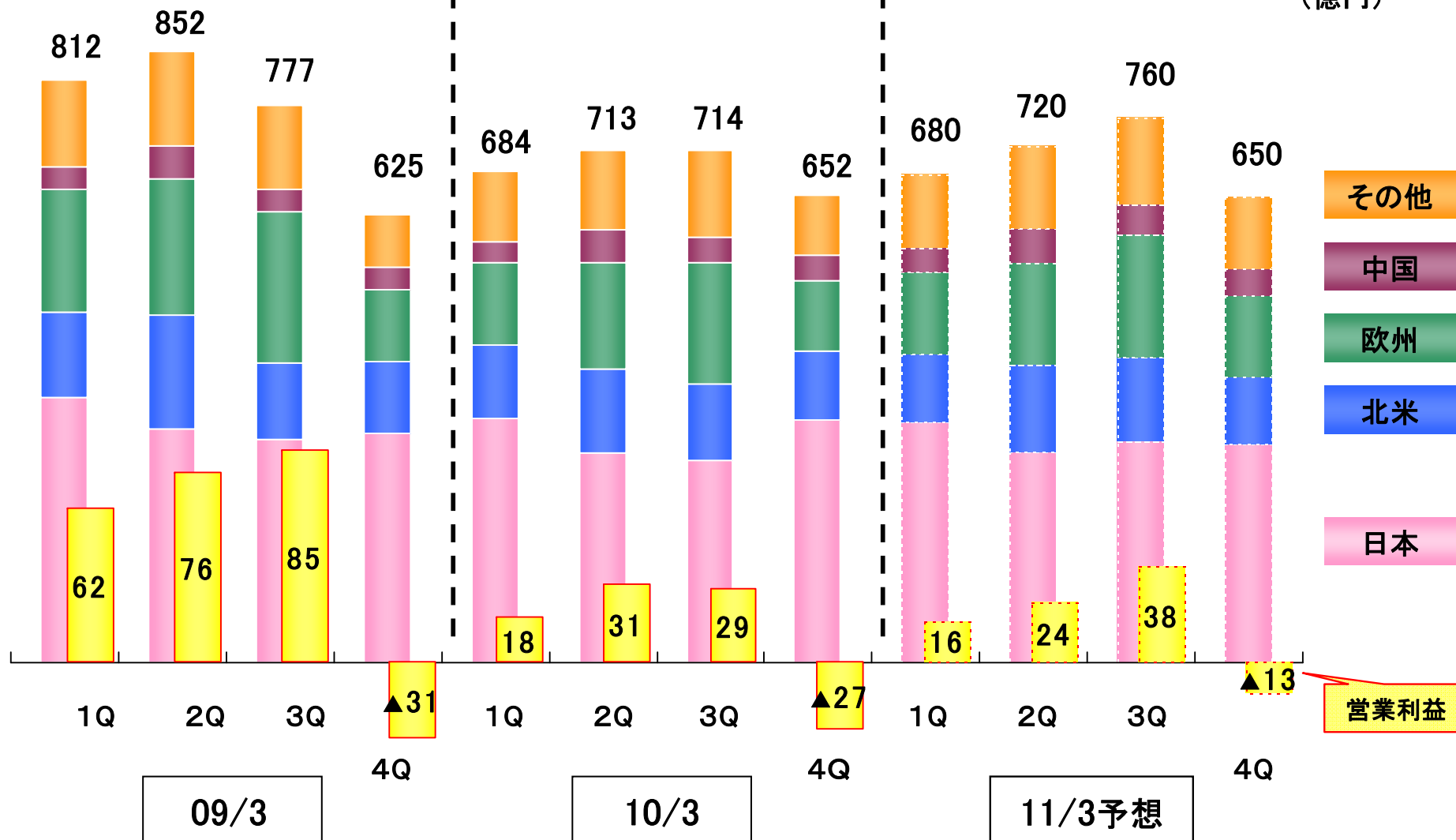


売上高 3,066億円
営業利益 192億円

売上高 2,763億円
営業利益 51億円

売上高 2,810億円
営業利益 65億円

(億円)



AV/IT四半期別売上高／営業利益

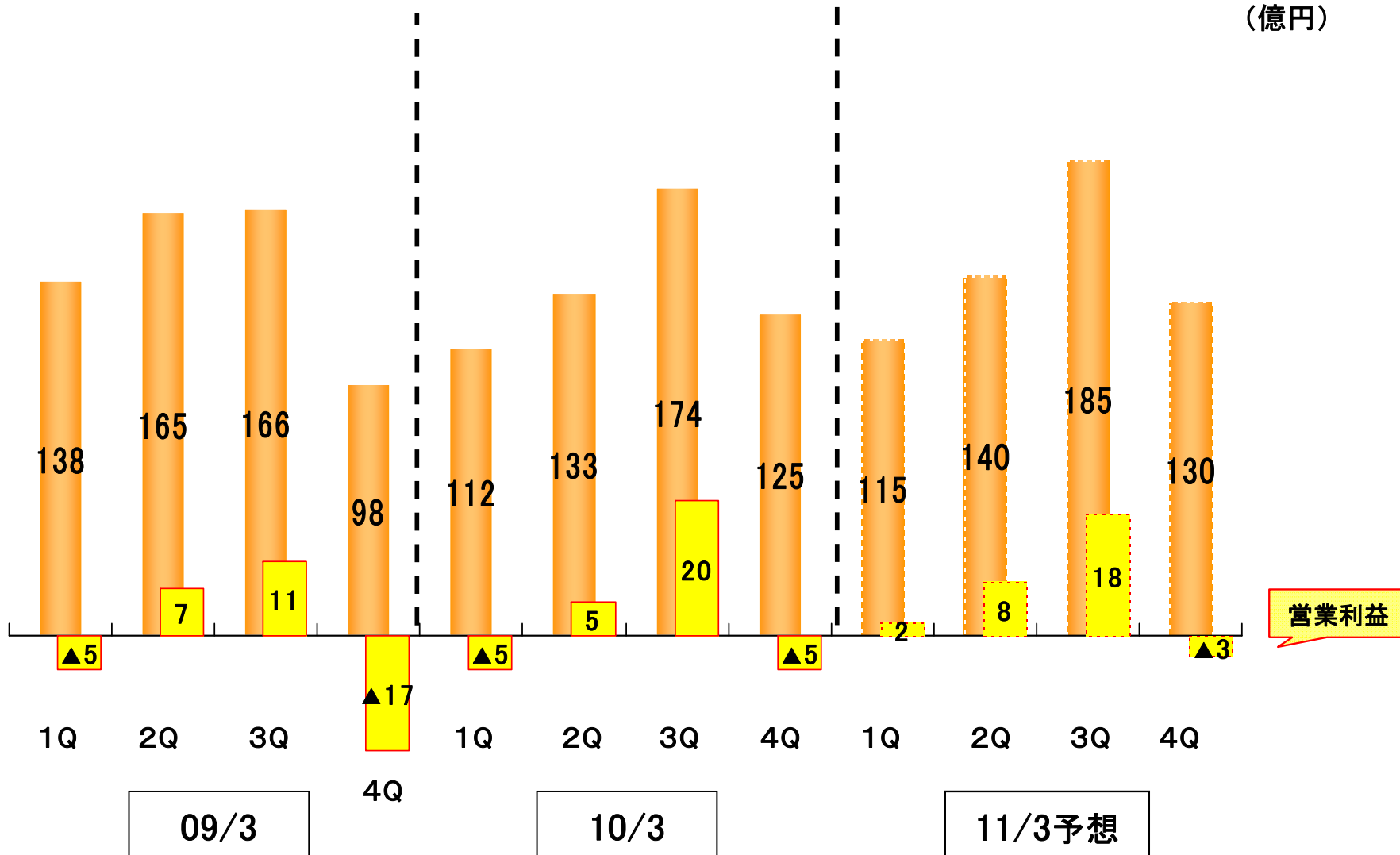


売上高 567億円
営業利益 ▲4億円

売上高 544億円
営業利益 14億円

売上高 570億円
営業利益 25億円

(億円)



営業利益

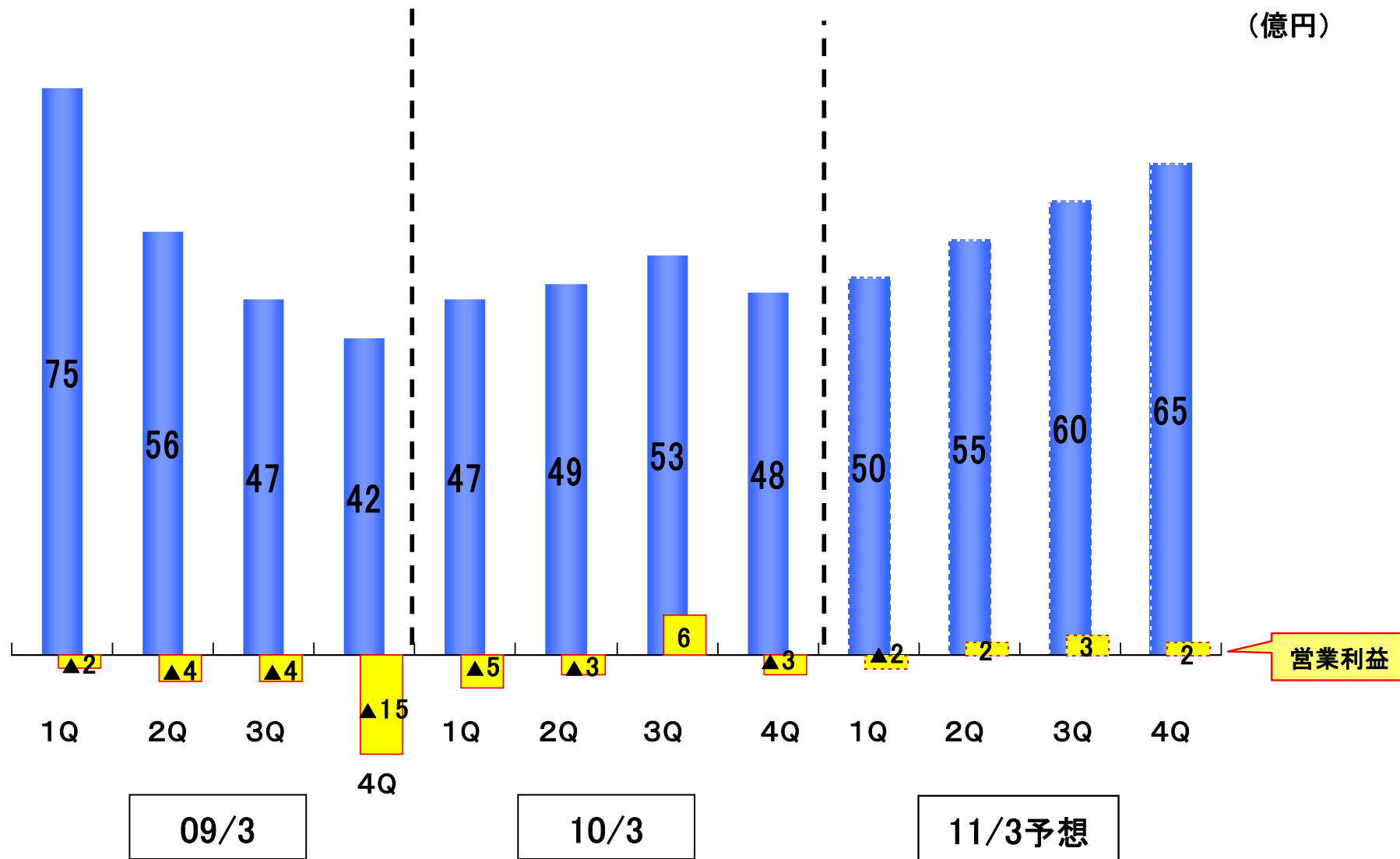
電子部品四半期別売上高／営業利益



売上高 220億円
営業利益 ▲25億円

売上高 197億円
営業利益 ▲6億円

売上高 230億円
営業利益 5億円



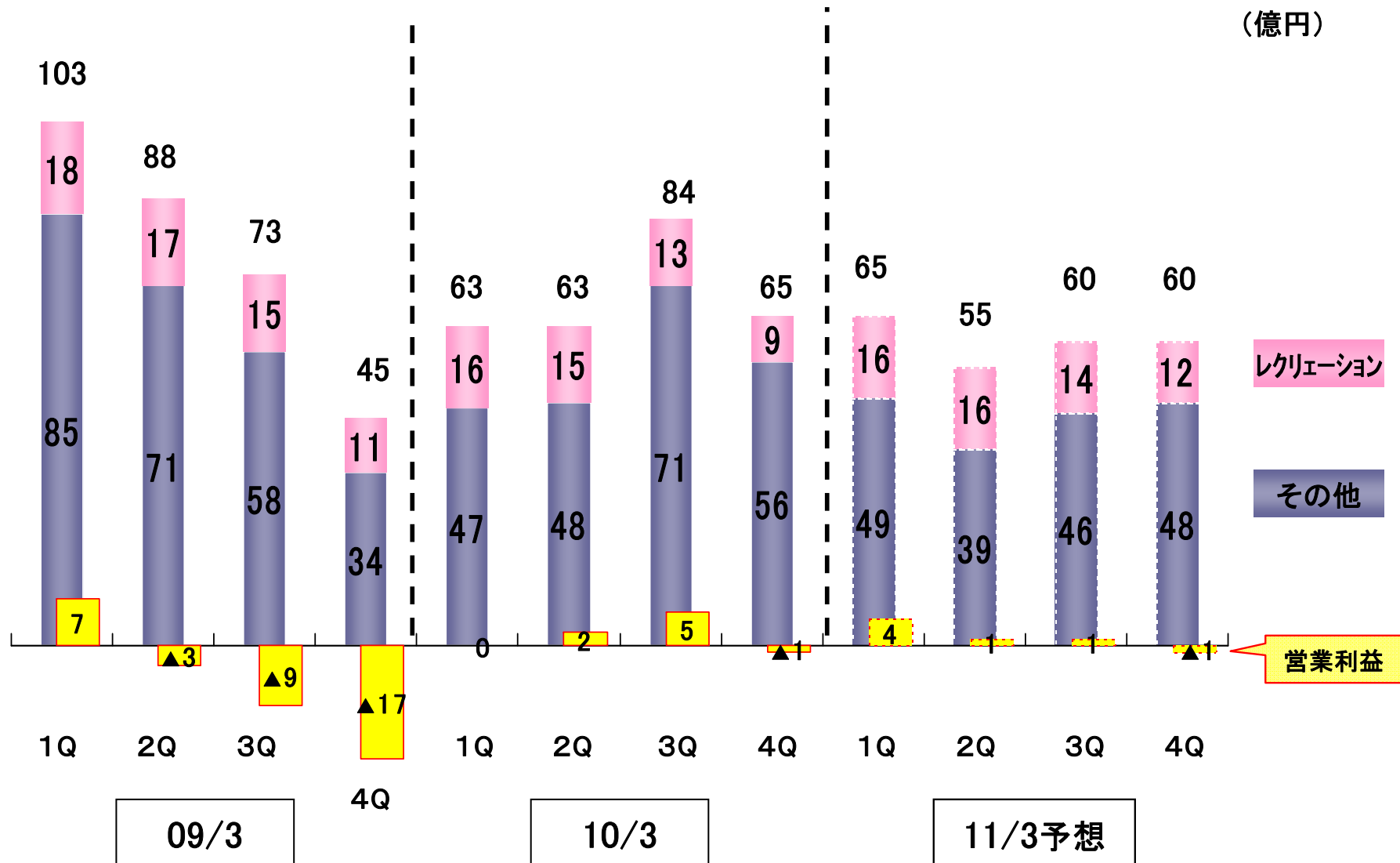
その他四半期別売上高／営業利益



売上高 309億円
営業利益 ▲21億円

売上高 275億円
営業利益 5億円

売上高 240億円
営業利益 5億円



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。